

# 眼鏡下池北遺跡

－牛川西部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2008年3月

豊橋市教育委員会

豊橋市埋蔵文化財調査報告書第96集

め がね しも いけ きた い せき  
**眼鏡下池北遺跡**

－牛川西部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2008年3月

豊橋市教育委員会



カラー図版 1

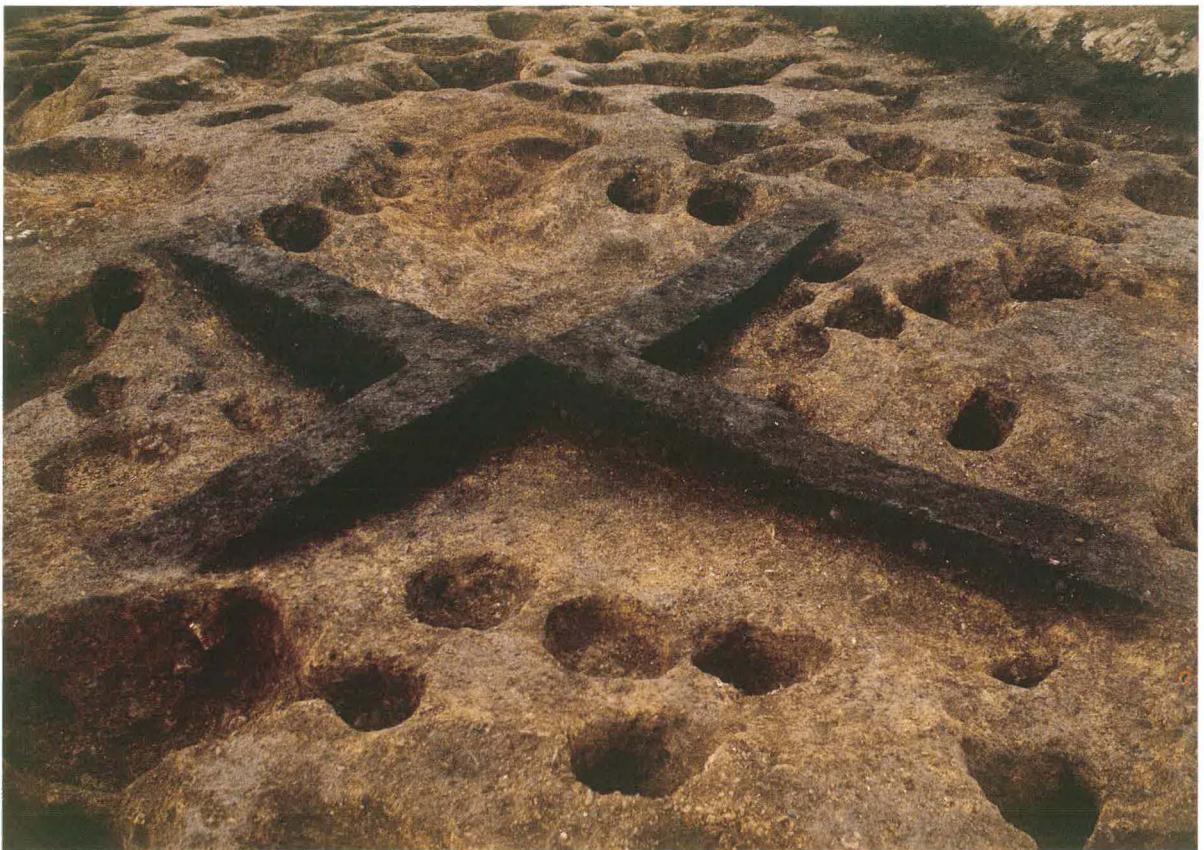


1. 調査区全景（南から）



2. 調査区全景（東から）

## カラー図版 2



1. SB-1 全景 (南東から)



2. SB-1 完掘後全景 (南東から)

カラー図版 3



1. SF-15全景（西から）



2. SF-37全景（北東から）

## カラー図版 4



1. SF-28全景（北西から）



2. SF-65全景（南西から）



3. SF-14断ち割り（北から）

カラー図版 5



1. SF-51全景（南から）



2. SF-12遺物出土状況（西から）



3. SS-3全景（北から）



4. SS-3断ち割り（北から）

## カラー図版 6



1. SS-2 全景（西から）



2. SS-2 断ち割り（南から）

カラー図版 7



1. SS-7 全景（北から）



2. SS-7 断ち割り（北から）

## カラー図版 8



1. SB-4 全景（直上）



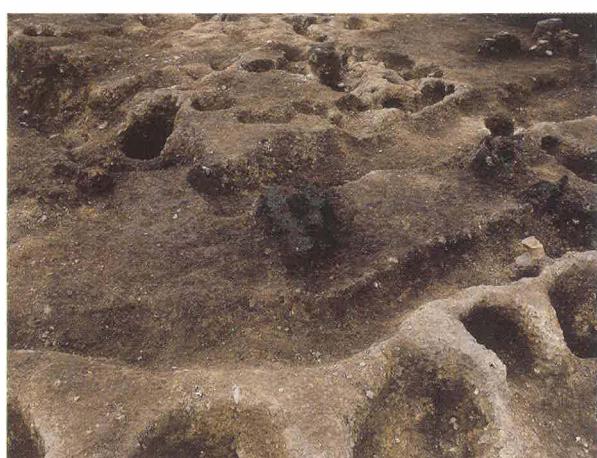
2. SB-4 北西端焼土・炭出土状況（南から）



3. SB-4 西端土器出土状況（南から）



5. SB-4 南東端炭化材出土状況（南から）



6. SB-4 南東端炭化材出土状況（南東から）

## 例　　言

1. 本書は、豊橋市牛川町字東側において牛川西部土地区画整理事業に伴い事前に実施した眼鏡下池北遺跡の発掘調査報告書である。調査期間は平成17年12月12日～平成18年3月31日で、調査面積は1,800m<sup>2</sup>である。
2. 発掘調査については、豊橋牛川西部土地区画整理組合から委託を受けた豊橋市教育委員会が行い、岩瀬彰利（豊橋市美術博物館学芸員）が担当した。
3. 発掘調査に際して、多くの土地所有者をはじめ、地元の方々のご理解・ご協力を頂いた。現地で矢野健一（立命館大学）、山本直人（名古屋大学）の両氏にご指導を頂いている。また、本書の執筆に際して、池谷信之（沼津市文化財センター）、伊藤正人（名古屋市教育委員会）、大塚達朗・長田友也（南山大学）、川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）、織嶋　茂（名古屋市見晴台考古資料館）、田村陽一・小濱　学（三重県埋蔵文化財センター）、筒井　京（磐田西高校）、守屋豊人（北海道大学）の各氏にご教示を頂いている。記して感謝の意を表す次第である。
4. 報告書の作成については、井上佳子・小出豊・竹嶋浩子・原田まり子・原田祥子・平賀静子・補永亨代・大谷孝世・安田明己の援助を受けた。写真撮影については、発掘調査・出土遺物は岩瀬が行ったが、航空写真撮影は株式会社G I S中部に委託して行った。
5. 本書の執筆は以下のとおりである。編集は岩瀬が行った。

第5章	.....	(株)パレオ・ラボ
上記以外	.....	岩瀬彰利
6. 調査区に使用した座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第VII系に準拠し、これを示した。本書に使用した方位はこの座標系に沿うものである。遺構・遺物のスケールについてはそれぞれに明示した。写真の縮尺は任意である。
7. 調査にあたって作成した写真・カラースライド・実測図等の記録や出土遺物は、豊橋市教育委員会において保管・管理している。

# 目 次

## 第1章 遺跡の立地と歴史的環境

1. 遺跡の立地 .....	1
2. 歴史的環境 .....	3

## 第2章 調査の経過

1. 調査に至る経過 .....	5
2. 調査の方法 .....	5

## 第3章 繩文時代の遺構・遺物

1. 壱穴住居 .....	13
2. 土壙 .....	15
3. 屋外炉 .....	24
4. 遺物 .....	54

## 第4章 弥生時代以降の遺構・遺物

1. 壱穴住居・掘立柱建物 .....	77
2. 柵 .....	78
3. 不明遺構 .....	79
4. 溝 .....	79
5. 土壙 .....	82
6. 遺物 .....	89

## 第5章 分析

1. 炉穴出土炭化材の樹種同定 .....	102
2. 放射性炭素年代測定 .....	104
3. 炉穴内土壤の内容物分析 .....	108

## 第6章 考察

1. 眼鏡下池北遺跡の縄文時代遺構・遺物について .....	111
2. まとめ .....	114

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第1図 眼鏡下池北遺跡位置図 (1/20,000) .....	1
第2図 眼鏡下池北遺跡周辺地形図 (1/15,000) .....	2
第3図 眼鏡下池北遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000) .....	4
第4図 調査区位置図 (1/2,500) .....	6
第5図 調査区全体図 (1/400) .....	7
第6図 A地区遺構位置図 (1/200) .....	9
第7図 B地区遺構位置図 (1/200) .....	11
第8図 SB-1平面図・断面図 (1/40) .....	14
第9図 繩文時代竪穴住居・土壙実測図-1 (1/80) .....	34
第10図 繩文時代土壙実測図-2 (1/80) .....	35
第11図 炉穴実測図-1 (1/20) .....	36
第12図 炉穴実測図-2 (1/20) .....	37
第13図 炉穴実測図-3 (1/20) .....	38
第14図 炉穴実測図-4 (1/20) .....	39
第15図 炉穴実測図-5 (1/20) .....	40
第16図 炉穴実測図-6 (1/20) .....	41
第17図 炉穴実測図-7 (1/20) .....	42
第18図 炉穴実測図-8 (1/20) .....	43
第19図 炉穴実測図-9 (1/20) .....	44
第20図 炉穴実測図-10 (1/20) .....	45
第21図 炉穴実測図-11 (1/20) .....	46
第22図 炉穴実測図-12 (1/20) .....	47
第23図 炉穴実測図-13 (1/20) .....	48
第24図 炉穴実測図-14 (1/20) .....	49
第25図 炉穴実測図-15 (1/20) .....	50
第26図 集石炉実測図-1 (1/20) .....	51
第27図 集石炉実測図-2 (1/20) .....	52
第28図 集石炉実測図-3 (1/20) .....	53
第29図 繩文土器実測図-1 (1/3) .....	63
第30図 繩文土器実測図-2 (1/3) .....	64
第31図 繩文土器実測図-3 (1/3) .....	65
第32図 繩文土器実測図-4 (1/3) .....	66
第33図 石器実測図-1 (1/3・1/4) .....	74

第34図 石器実測図－2（1／4）	75
第35図 石器実測図－3・土製品実測図（1／2・1／4）	76
第36図 弥生時代以降竪穴住居・掘立柱建物実測図－1（1／80）	85
第37図 S B－4 遺物出土状況図（1／40）	86
第38図 弥生時代以降掘立柱建物－2・塀・不明遺構実測図（1／80）	87
第39図 弥生時代以降土壙実測図（1／80）	88
第40図 弥生時代以降出土遺物実測図－1（1／3）	94
第41図 弥生時代以降出土遺物実測図－2（1／3）	95
第42図 弥生時代以降出土遺物実測図－3（1／3）	96
第43図 弥生時代以降出土遺物実測図－4（1／3）	97
第44図 弥生時代以降出土遺物実測図－5（1／3）	98
第45図 弥生時代以降出土遺物実測図－6（1／3）	99
第46図 土壙出土炭化材の年代測定暦年較正図	107
第47図 炉穴内出土プレス試料の元素マッピング図	110

## 表 目 次

第1表 縄文土器観察表	67
第2表 石器観察表	73
第3表 弥生時代以降出土遺物観察表	100
第4表 土壙出土炭化材とその樹種	102
第5表 測定試料及び処理	104
第6表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	105
第7表 リンまたはカルシウムが多く検出された部分の点分析結果	109

## 卷頭カラー写真図版目次

1－1 調査区全景(南から)	2 調査区全景(東から)
2－1 S B－1 全景(南東から)	2 S B－1 完掘後全景(南東から)
3－1 S F－15全景(西から)	2 S F－37全景(北東から)
4－1 S F－28全景(北西から)	2 S F－65全景(南西から)
3 S F－14断ち割り(北から)	

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 5 - 1 S F - 51全景(南から)      | 2 S F - 12遺物出土状況(西から)      |
| 3 S S - 3 全景(北から)          | 4 S S - 3 断ち割り(北から)        |
| 6 - 1 S S - 2 全景(西から)      | 2 S S - 2 断ち割り(南から)        |
| 7 - 1 S S - 7 全景(北から)      | 2 S S - 7 断ち割り(北から)        |
| 8 - 1 S B - 4 全景(直上)       | 2 S B - 4 北西端焼土・炭出土状況(南から) |
| 3 S B - 4 西端土器出土状況(南から)    | 4 S B - 4 南東端炭化材出土状況(南から)  |
| 5 S B - 4 南東端炭化材出土状況(南東から) |                            |

## 写真図版目次

- |                                  |                                   |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 - 1 S B - 1 · S F - 24全景(北西から) | 2 S B - 1 · S F - 24 · 26全景(北東から) |
| 2 - 1 S B - 2 · S F - 60全景(北東から) | 2 S B - 3 全景(西から)                 |
| 3 - 1 S F - 1 全景(南から)            | 2 S F - 2 全景(南から)                 |
| 3 S F - 3 全景(南から)                | 4 S F - 4 全景(南から)                 |
| 5 S F - 5 全景(南から)                | 6 S F - 6 全景(南から)                 |
| 4 - 1 S F - 7 全景(東から)            | 2 S F - 8 全景(南から)                 |
| 3 S F - 9 全景(南から)                | 4 S F - 10全景(南から)                 |
| 5 - 1 S F - 11全景(南から)            | 2 S F - 12土器出土状況(南から)             |
| 3 S F - 12全景(南から)                | 4 S F - 13全景(南東から)                |
| 5 S F - 14断面(北から)                | 6 S F - 12全景(南から)                 |
| 6 - 1 S F - 15全景(北から)            | 2 S F - 15全景(南から)                 |
| 3 S F - 15全景(西から)                | 4 S F - 15全景(東から)                 |
| 5 S F - 16 · 17全景(南から)           | 6 S F - 16 · 17全景(東から)            |
| 7 - 1 S F - 18全景(南から)            | 2 S F - 19土器出土状況(北から)             |
| 3 S F - 19土器出土状況(北から)            | 4 S F - 19全景(西から)                 |
| 5 S F - 20全景(北から)                | 6 S F - 21全景(北から)                 |
| 8 - 1 S F - 22全景(北東から)           | 2 S F - 23全景(北から)                 |
| 3 S F - 24全景(北から)                | 4 S F - 25全景(東から)                 |
| 5 S F - 27全景(北から)                |                                   |
| 9 - 1 S F - 28断ち割り(南東から)         | 2 S F - 28台石出土状況(北東から)            |
| 3 S F - 28全景(北東から)               | 4 S F - 29全景(北から)                 |
| 5 S F - 31全景(北東から)               |                                   |
| 10 - 1 S F - 30全景(北西から)          | 2 S F - 32断ち割り(東から)               |
| 3 S F - 33断ち割り(西から)              | 4 S F - 32 · 33全景(北西から)           |

- 5 S F - 34断ち割り(南西から)
- 11- 1 S F - 35断ち割り(西から) 2 S F - 35全景(北から)
- 3 S F - 36全景(南から) 4 S F - 37内部(北から)
- 5 S F - 37全景(南から)
- 12- 1 S F - 38台石出土状況(東から) 2 S F - 38全景(東から)
- 3 S F - 39土器出土状況(南東から) 4 S F - 39全景(東から)
- 13- 1 S F - 40断ち割り(西から) 2 S F - 41全景(南から)
- 3 S F - 42全景(南から) 4 S F - 43全景(南から)
- 5 S F - 44全景(北から)
- 14- 1 S F - 45全景(北から) 2 S F - 46全景(北から)
- 3 S F - 47全景(北から) 4 S F - 48全景(南東から)
- 5 S F - 49全景(南から)
- 15- 1 S F - 50全景(南から) 2 S F - 51全景(南から)
- 3 S F - 52・53全景(北東から) 4 S F - 54全景(北から)
- 16- 1 S F - 56全景(北から) 2 S F - 57全景(北から)
- 3 S F - 59全景(北から) 4 S F - 61全景(東から)
- 17- 1 S F - 63・64土器出土状況(北東から) 2 S F - 63・64全景(東から)
- 3 S F - 62全景(南から) 4 S F - 65全景(南西から)
- 18- 1 S F - 66全景(北西から) 2 S F - 67全景(北から)
- 3 S F - 68全景(北から) 4 S F - 69全景(北から)
- 5 S F - 14地山断ち割り(北から)
- 19- 1 S S - 1 全景(西から) 2 S S - 1 断ち割り(西から)
- 3 S S - 1 完掘後全景(南から) 4 S S - 2 全景(東から)
- 5 S S - 2 完掘後全景(南から)
- 20- 1 S S - 3 全景(南から) 2 S S - 3 断ち割り(北から)
- 3 S S - 4 全景(東から) 4 S S - 4 断ち割り(北から)
- 5 S S - 4 完掘後全景(北から)
- 21- 1 S S - 5 全景(西から) 2 S S - 5 断ち割り(南から)
- 3 S S - 6 全景(西から) 4 S S - 5・6 全景(北東から)
- 5 S S - 5・6 完掘後全景(南西から)
- 22- 1 S S - 7 全景(北から) 2 S S - 7 全景(南から)
- 3 S S - 7 全景(東から) 4 S S - 7 全景(西から)
- 5 S S - 7 完掘後全景(北から)
- 23- 1 S B - 4 全景(南西から) 2 S B - 4 全景(南東から)
- 24- 1 S X - 1 全景(北東から) 2 S X - 1 完掘後全景(北東から)
- 3 S X - 2・S D - 2・3(東から) 4 S K - 36全景(北から)

- 5 S K - 55全景(西から)  
25-1 S K - 43~54(西から) 2 S K - 43~54(東から)  
3 S K - 49全景(南から) 4 S K - 50全景(南から)  
5 S D - 8 全景(南から) 6 S D - 11・12全景(南から)
- 26 縄文土器-1  
27 縄文土器-2  
28 縄文土器-3  
29 縄文土器-4  
30 石器-1  
31 石器-2・土製品  
32 弥生時代以降の遺物-1  
33 弥生時代以降の遺物-2  
34 出土炭化材の走査電子顕微鏡写真  
35 処理後の炉穴試料の状況写真

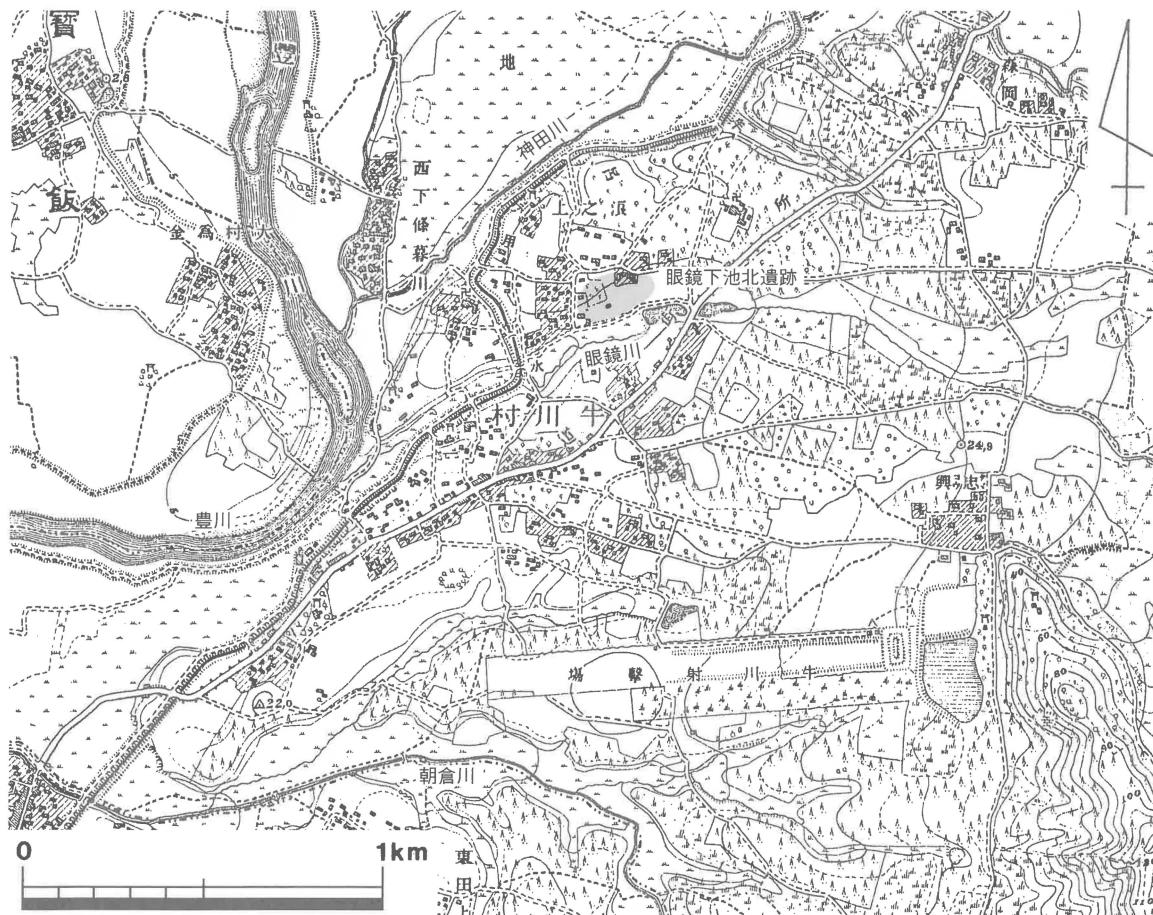


# 第1章 遺跡の立地と歴史的環境

## 1. 遺跡の立地（第1・2図）

豊橋市は西側を三河湾、南側を太平洋、東側を弓張山系の山地、北側を豊川に囲まれた都市である。市が接する三河湾は東部湾奥部に相当し、そこには豊川が流入している。豊川は奥三河山間部を源とし、中央構造線に沿って南西に流下する1級河川である。眼鏡下池北遺跡は、豊橋市中心部から北東に4km程のところにあり、豊川の支流である眼鏡川によって開析された標高14m前後の段丘上に位置する。眼鏡下池北遺跡が所在する段丘は、朝倉川と神田川によって開析された牛川面と呼ばれる河岸段丘で、中位面に相当する。この牛川面は、西側に広がる豊橋平野の沖積低地と高低差が10~15m程もあり、段丘崖によって明確に区切られている。東側は弓張山系の山地と接しており、そこから南西に向かって緩やかに傾斜している。この牛川面の特徴は、豊川によって形成された河岸段丘上に、その支流の朝倉川や神田川による扇状地性の堆積物が覆っていることで、比較的大きな礫を含んだ粒の揃わない砂礫層が形成されている。

眼鏡下池北遺跡は、牛川面が更に眼鏡川によって開析された段丘南端部に立地し、川との比高差は約5mである。眼鏡川は、段丘端から内部に1kmほどのところに湧水による池があり、そこで谷が



第1図 眼鏡下池北遺跡位置図 (1/20,000 明治23年 大日本帝国陸地測量部より)



第2図 眼鏡下池北遺跡周辺地形図 (1/15,000)

消滅してその上流では水流が認められない。これは東部の弓張山系の山地から伏流水が流れてきていたため、一般的な扇状地とよく似た状況にある。このような扇状地の扇頂や扇端では湧水地に集落が形成される傾向がある。眼鏡下池北遺跡は、このような水利の得やすい良好な環境に集落が営まれていた。

#### 参考文献

- 小林久彦 2006 「第1章 遺跡の立地と歴史的環境」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第84集 西側遺跡（II）』  
1～5頁 豊橋市教育委員会：豊橋
- 水野季彦 1995 「遺跡の立地」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第23集 熊野遺跡』 1～4頁 豊橋市教育  
委員会・豊橋遺跡調査会：豊橋

## 2. 歴史的環境（第3図）

眼鏡下池北遺跡のある豊川左岸の段丘縁部は遺跡の密集地である。ここでは、時代ごとに周辺遺跡について述べる。

### 縄文時代

早期では、竪穴住居や煙道付炉穴が多数検出された眼鏡下池北遺跡（1）以外に、押型文土器が出土したおいほて遺跡（22）や浪ノ上遺跡などが知られている。前期では西側北遺跡から北白川下層Ⅱb式土器や竪穴住居が発見されている。中期では洗島遺跡（28）から中期中葉を中心とした竪穴住居が検出されている。晩期になると周辺の遺跡でも土器片が出土するが、規模の大きな遺跡は確認されていない。

### 弥生時代

前期では遠賀川式の環濠が検出された白石遺跡がある。中期になると遺跡数は急増し、西側遺跡（15）では竪穴住居が検出している。他にも熊野遺跡、高井遺跡、浪ノ上遺跡、狭間（森岡）遺跡（20）などで、竪穴住居や方形周溝墓などが検出されている。後期になると西側遺跡、浪ノ上遺跡、高井遺跡では大規模な環濠が巡るようになる。

### 古墳時代

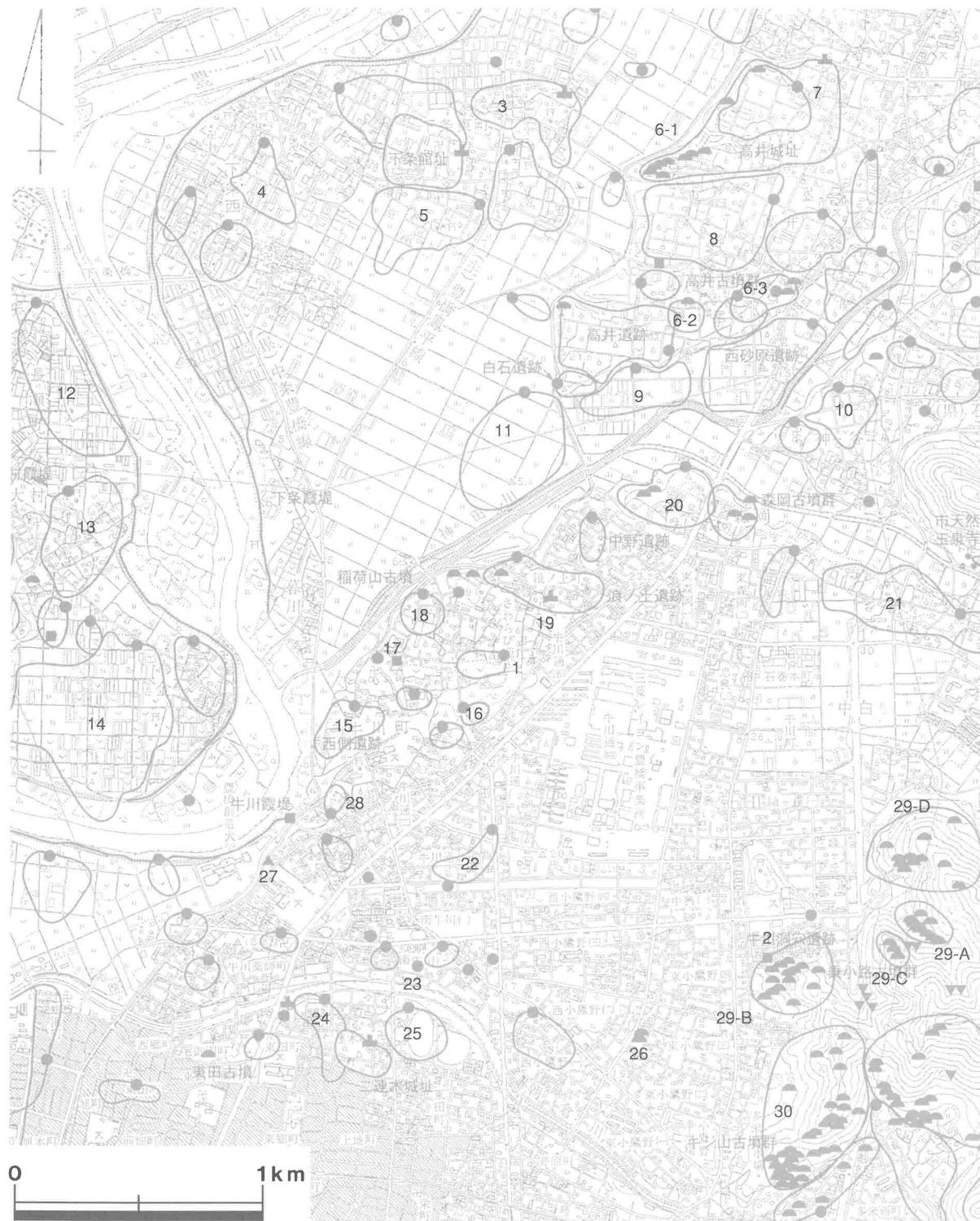
古墳時代は、竪穴住居が白石遺跡、高井遺跡、熊野遺跡、東田遺跡などで、竪穴住居などが確認されている。沖積低地にある東郷廻遺跡（4）や広間遺跡（5）、下河原遺跡（13）、為河原郷遺跡（14）などからも須恵器や土師器が採集されており、低地にも集落が営まれていたようである。古墳は、西側北遺跡から前期古墳が、洗嶋遺跡から中期古墳が確認されている。また、朝倉川左岸には中期の東田古墳がある。全長40m程の前方後円墳である。稲荷山1・2号墳などは中期～後期にかけての方墳と考えられる。

### 古代以降

古代は、西側遺跡で竪穴住居や土壙などが確認され、西先原遺跡（23）では道路状遺構や柵列が検出されている。

中世では、西側遺跡で集落の跡や多数の地下式坑が確認されている。熊野遺跡（18）では15世紀後半と推測される地下式坑が検出され、西側古墓群（17）では12世紀末～15世紀の蔵骨器や五輪塔などが出土している。中世城館址も多く、高井城址や下条館址、下条堀内古屋敷址（3）、二連木城址、浪之上古屋敷址（19）などがある。

近世では、神ヶ谷遺跡（10）や熊野遺跡、西側遺跡などがある。また吉田藩のお庭焼きである牛川焼窯址（27）からは、陶器や窯道具が出土している。



第3図 眼鏡下池北遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)

## 第2章 調査の経過

### 1. 調査に至る経過

今回発掘調査を行った眼鏡下池北遺跡のある豊橋市牛川町は、市中心部から4kmの位置にある交通の便のよい地域であり、宅地開発等が進んでいる地区である。この地区に対しては、市教育委員会が昭和61年度と平成元年度に分布調査を行って遺跡範囲を推定し、さらに平成2年度と平成9年度には範囲確認調査を実施して、遺跡の範囲を確定している。眼鏡下池北遺跡は分布調査及び範囲確認調査によって遺跡の存在が確認されて範囲が確定されたものである。牛川町の周辺部は近年、土地区画整理や宅地開発が進んでいるが、牛川町の中心部は江戸時代から続く道が細い旧来のままの集落であった。このため、平成7年度から豊橋牛川西部土地区画整理組合によって約43haに及ぶ土地区画整理事業が計画・実施され、道路などが整備され始めている。

眼鏡下池北遺跡の発掘調査は、この土地区画整理事業に伴うものである。土地区画整理地内には、眼鏡下池北遺跡をはじめ、西側遺跡、中郷遺跡、東側遺跡などの8遺跡が存在している。遺跡の発掘調査は平成14年度の西側遺跡第1次調査から始まり、しばらくは西側遺跡の調査が続いた。今回行った眼鏡下池北遺跡の調査は初めての本格的な発掘調査であり、第1次調査に相当する。

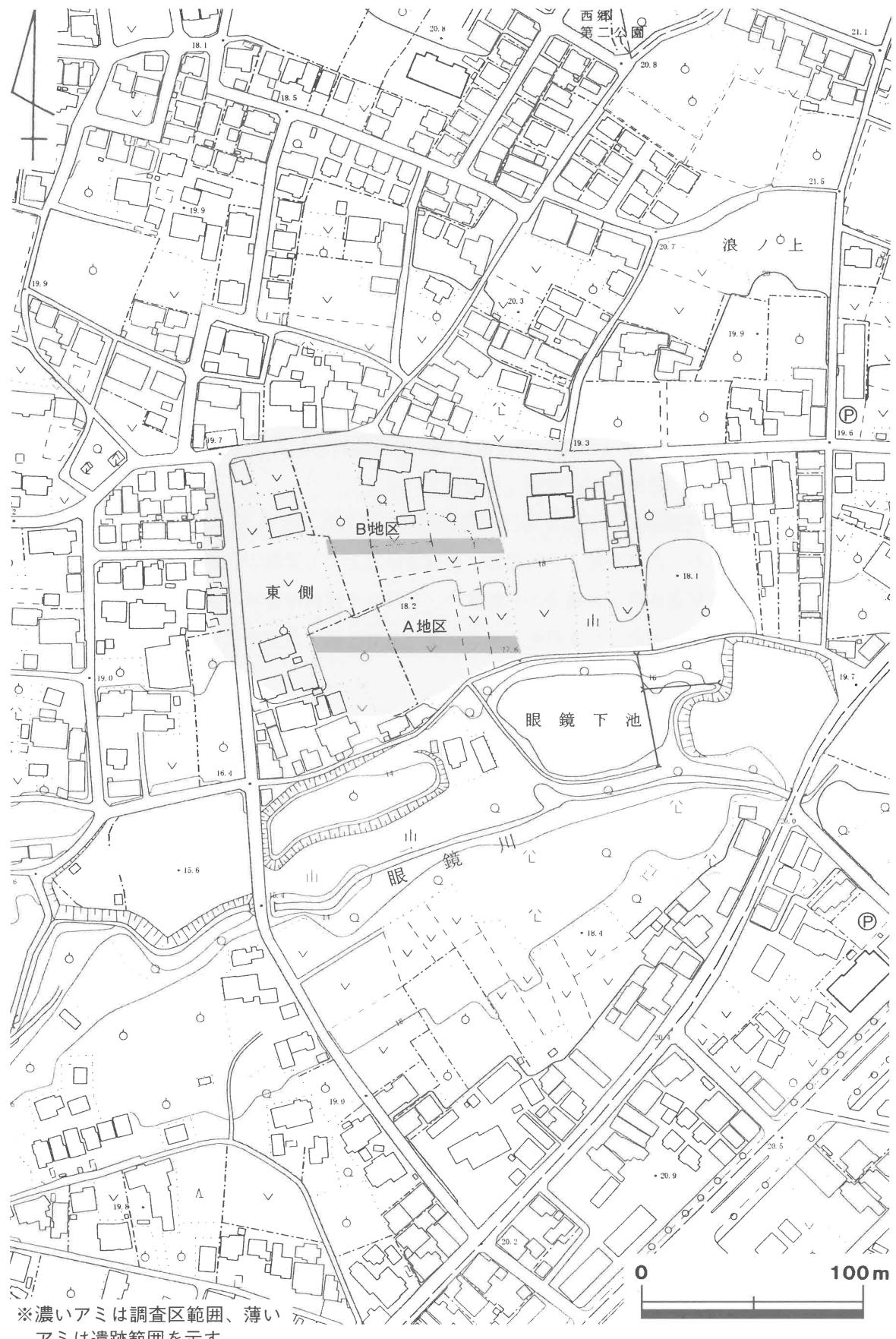
### 2. 調査の方法（第4図）

発掘調査は、基本的に切り土によって遺跡を破壊する部分を対象としている。今回の発掘調査は削平される道路部分について行っている（第4図）。調査面積は1,800m<sup>2</sup>である。調査区の設定については、国土交通省告示に定められた平面直角座標第VII系に準拠し、この国土座標に合わせて眼鏡下池北遺跡の北西隅を起点にして、10mグリッドを設定した。この起点より西から東にA～Z、北から南に1～17というように名付け、その交点を地区名としている。

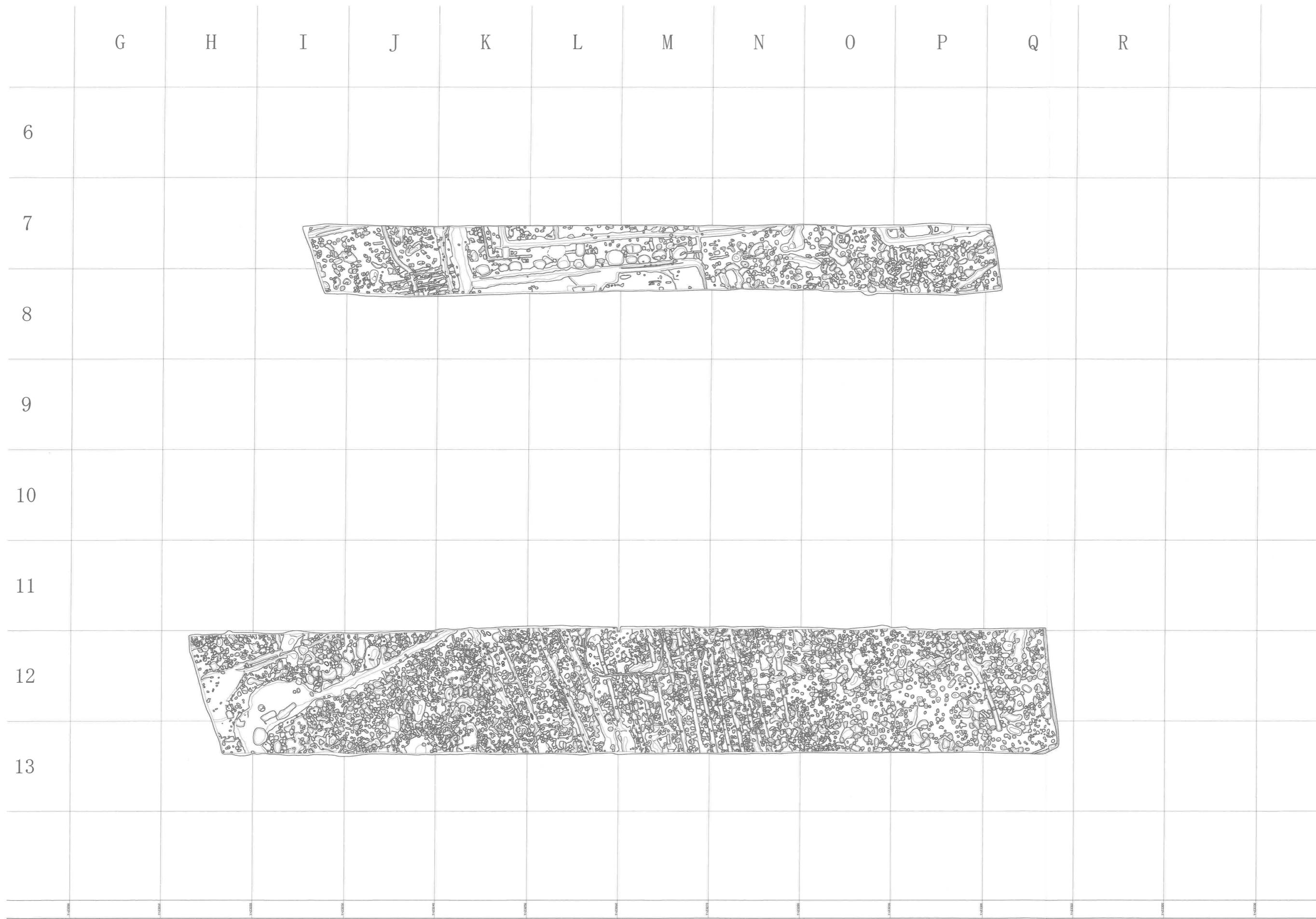
発掘調査の手順は表土を重機を用いて掘削し、後は人力で掘り下げた。具体的な作業順序は以下のとおりである。

1. 重機を使用して調査区内の表土剥ぎを行う。
2. 人力で遺構検出・掘削を行い、遺物を取り上げる。
3. 必要に応じて遺物出土状況図などの関係図面を作成したり、出土状況写真を撮影する。
4. 調査区内の遺構を完掘し、遺構全体図を完成させる。
5. ラジコンヘリを用いて調査区の全体写真を撮影する。

こうして、平成17年12月12日～平成18年3月31日の期間にわたり発掘調査を行った。

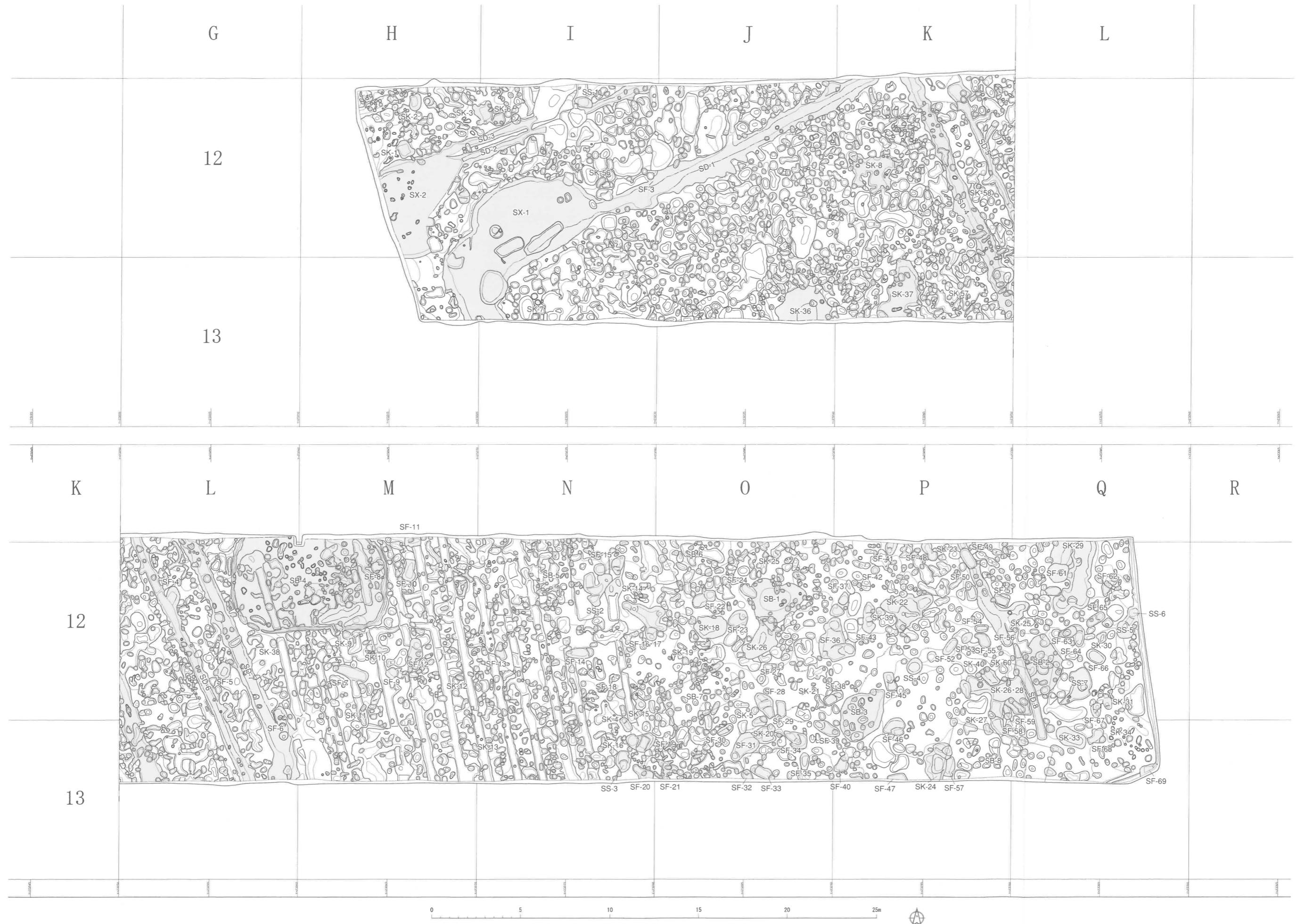


第4図 調査区位置図 (1/2,500)



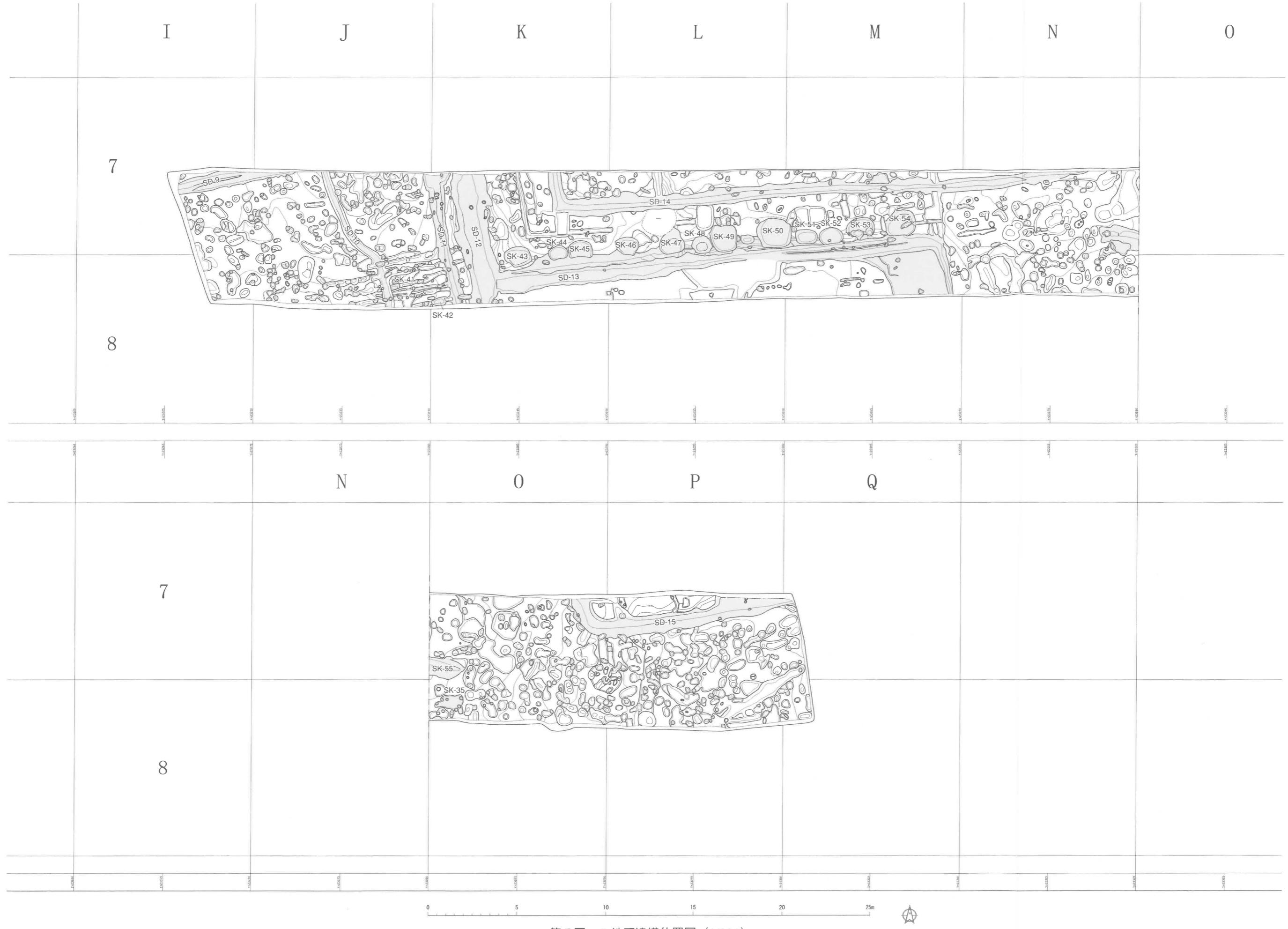
第5図 調査区全体図 (1/400)





第6図 A地区遺構位置図 (1/200)





第7図 B地区遺構位置図 (1/200)



## 第3章 縄文時代の遺構・遺物

縄文時代の遺構は、竪穴住居（S B）3軒、炉穴（S F）69基、集石炉（S S）7基、土壙（S K）が多数検出されている。このうち多数検出されている土壙では、帰属時期を明確にするのは困難である。ここでは縄文土器のみが出土し、他時代の遺物を含まない土壙を縄文時代の遺構として扱うものとする。各遺構を種類ごとに説明し、土壙に関しては縄文土器が出土したものを中心に記載する。なお、各遺構の規模等は検出面で測った数値である。

### 1. 竪穴住居（第8・9図）

竪穴住居は、段丘端部付近のA地区から3軒が検出されている。竪穴住居周辺は炉穴の集中地区であり、このうちS B-1・2は炉穴と重複している。

#### S B-1（第8・9図）

A地区O-12区で検出された竪穴住居である。平面形は角部が丸くなった隅丸三角形に近い形態をなすものと思われ、規模は長軸3.1m、短軸2.3mである。主軸方位はN-81°-Wである。

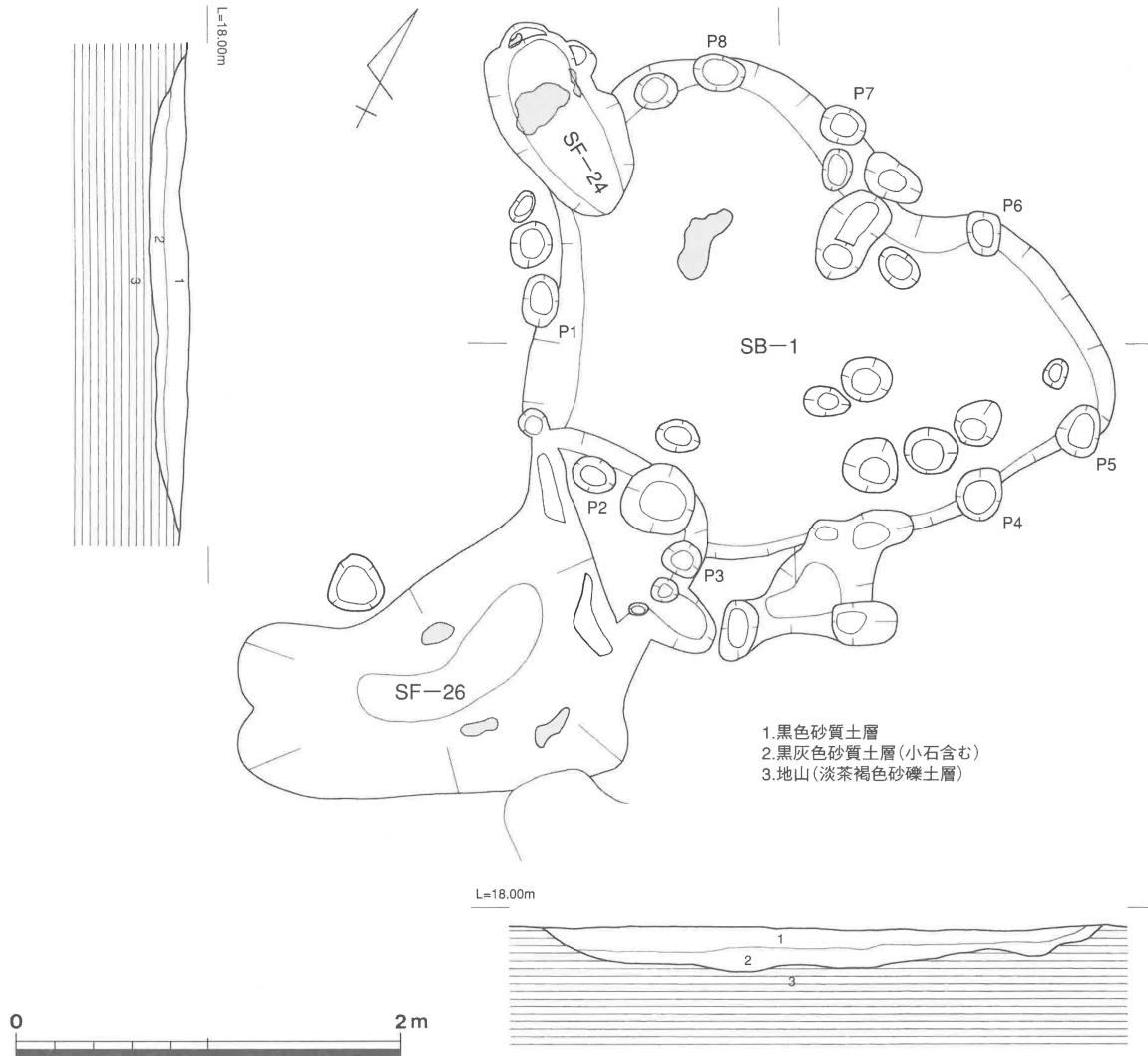
住居壁は比較的緩傾斜であり、深さは約20cmである。壁溝は確認されていない。床面は比較的平坦で、住居断面形は皿状をなしている。屋内炉は無いが、S F-24・26の2基の炉穴が重複している。住居北西側でS F-24と重なるが、S F-24を壊してS B-1がつくられたという先後関係が確認されている。住居床面に確認された42cm×12cmの範囲の焼土は、S F-24の残存部と考えられる。一方、住居南側でS F-26と重なるが、先後関係については確認できていない。住居埋土は、黒灰色砂質土（小石混ざる）上に黒色砂質土が堆積していたことが確認されている。

柱穴の特定は難しいが、住居壁面に土壙が巡ることからこれらを環状配置の壁柱穴と考えた。柱穴と考えたものにはP 1～P 8がある。P 1は惰円形をなし、長径は28cm、深さは24cmである。P 2・P 3はS F-26端部と重なる。P 2は長径24cm、深さ20cmの惰円形、P 3は径20cm、深さ18cmの橈円形である。P 4は径30cm、深さ24cmの円形、P 5は径23cm、深さ23cmの橈円形、P 6は径25cm、深さ27cmの惰円形、P 7は長径23cm、深さ26cmの橈円形、P 8は長径27cm、深さ36cmの惰円形をなしている。

出土遺物は少ないが、住居内より早期前葉の大川式萩平型の土器が若干出土している。また住居内的一部には攪乱部があり、攪乱部からは中世陶器・碗など他時代の土器も若干出土している。出土遺物から住居の時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S B-2（第9図）

A地区Q-12区で検出された竪穴住居であるが、住居西側がS D-8に壊されている。平面形は橈円形に近い形態をなすものと思われ、規模は長軸3.2m、短軸2.2m以上である。主軸方位はN-5°-



第8図 SB-1 平面図・断面図 (1/40)

Eである。

住居壁は比較的緩傾斜であり、深さは11cmである。壁溝は確認されていない。床面は中央に向かって緩やかに窪むが、住居中央付近には中世～近世と思われる土壙が重なる。住居断面形をみるとがⅢ状をなしている。屋内炉は確認されていない。住居西側でSF-60の炉穴と重複しているが、先後関係については確認できていない。住居埋土は黒褐色砂質土である。

柱穴の特定は難しいが、住居壁面に土壙が巡ることからこれらを環状配置の壁柱穴と考えた。柱穴と考えたものにはP1～P5がある。P1は円形をなし、径は31cm、深さは25cmである。P2は径31cm、深さ9cmの円形、P3は径23cm、深さ20cmの円形である。P4は径30cm、深さ14cmの楕円形をなしている。P5は長径52cm、深さ25cmの楕円形である。

出土遺物は無くて時期は不明であるが、住居形態からSB-1と同様に早期前葉の大川式萩平型頃のものと思われる。

**S B - 3 (第9図)**

A地区P-12・13区で検出された竪穴住居である。平面形は楕円形に近い形態をなすものと思われ、規模は長軸3.4m、短軸2.4mである。主軸方位はN-32°-Eである。

住居壁は比較的緩傾斜であったが、床面を間違えたため掘り下げすぎて深さは約28cmとなっている。しかし、本来の床面は20cmほどの深さで、住居断面形は皿状をなしている。住居からは壁溝は確認されていない。屋内炉は確認されていない。住居埋土は黒褐色砂質土である。

柱穴の特定は難しいが、住居壁面に土壙が巡ることからこれらを環状配置の壁柱穴と考えた。柱穴と考えたものにはP1～P7がある。P1は楕円形をなし、長径は38cm、深さは26cm、P2は長径31cm、深さ15cmの楕円形、P3は長径24cm、深さ12cmの楕円形である。P4は長径36cm、深さ19cmの楕円形、P5は径31cm、深さ24cmの円形、P6は長径70cm、深さ28cmの楕円形、P7は長径36cm、深さ13cmの楕円形をなしている。

出土遺物は無くて時期は不明であるが、住居形態からS B - 1と同様に早期前葉の大川式萩平型頃のものと思われる。

**2. 屋外炉 (第11～28図)**

調査区内では、A地区から屋外炉が多数検出されている。屋外炉には炉穴と集石炉がある。調査では、いわゆる煙道付炉穴から焼土壙と呼ばれるものまで多種があるが、ここでは焼けている土壙を炉穴としてまとめて説明する。また、集石炉は炉穴を利用して作られていたが、重複する炉穴については集石炉で説明する。

**A. 炉穴 (第11～25図)**

炉穴は、平面形が長楕円形、二等辺三角形や長方形など様々なタイプが検出されている。重複している炉穴を分け、更に集石炉下から検出された炉穴を含めると総数は77基である。ここでは炉穴の平面形と床面形態を以下の様に分類し、これら分類を基に炉穴を説明する。

**平面形**

- 1類：平面形が二等辺三角形に近いもの
- 2類：平面形が長楕円形なもの
- 3類：平面形が楕円形または円形なもの
- 4類：平面形が長方形なもの
- 5類：不定型なもの（不明なものを含む）

**床面形態**

- A類：床面が平坦なもの
- B類：床面が傾斜するもの
- C類：床面の端が掘り窪められて段差があるもの
- C1類：床面全体は平坦なもの

C 2類：床面全体が傾斜するもの

D類：床面中央が深く窪むもの

E類：床面中央が両端より高いもの

F類：その他

#### S F - 1 (第11図)

A地区H-12区で検出された炉穴である。SX-2で一部が削平されているが、平面形は4類をなすものと思われ、床面はB類で焼けている。規模は長径67cm、短径48cm、深さは10cmである。主軸方位はN-87°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉の可能性がある。

#### S F - 2 (第11図)

A地区H-12区で検出された炉穴である。SX-2で一部が削平されているが、平面形は3類をなすものと思われ、床面はD類で中央が他より一段下がっており、西端部は焼けている。規模は長径105cm以上、短径62cm、深さは13cmである。主軸方位はN-11°-Wである。埋土は黒灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F - 3 (第11図)

A地区L-12区のSD-1で焼土が検出されている。溝の側面に比較的広く焼土面が存在していたためSD-1で壊された炉穴と考える。焼土の範囲は、長径57cm、短径52cmで南側に傾斜している。出土遺物は無いが、早期前葉の可能性がある。

#### S F - 4 (第11図)

A地区L-12区で検出された炉穴である。SD-6で一部が削平されているが、平面形は3類をなすものと思われ、床面はD類で焼けている。規模は長径90cm以上、短径78cm、深さは43cmである。主軸方位はN-9°-Eである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F - 5 (第11図)

A地区L-12区で検出された炉穴である。一部土壙が重複するが、平面形は4類をなすものと思われ、床面はB類で端部が焼けている。規模は長径95cm、短径76cm、深さは33cmである。主軸方位はN-15°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F - 6 (第11図)

A地区L-12区で検出された炉穴である。SD-7で一部が削平されているが、平面形は3類を

なすものと思われ、床面はD類で端部の側面から床面が焼けている。規模は長径120cm以上、短径73cm、深さは43cmである。主軸方位はN-19°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-7 (第12図)

A地区M-12区で検出された炉穴である。一部土壌が重複するが、平面形は2類をなすものと思われ、床面はC2類で中央側面が焼けている。規模は長径204cm、短径72cm、深さは21cmである。主軸方位はN-77°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-8 (第12図)

A地区M-12区のS B-4内で検出された炉穴である。平面形は3類をなすものと思われ、床面はC1類で焼けている。規模は長径81cm、短径61cm、深さは16cmである。主軸方位はN-46°-Wである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物は無いが、早期前葉のものと思われる。

#### S F-9 (第12図)

A地区M-12区で検出された炉穴である。一部現代溝と重複するが、平面形は4類をなすものと思われ、床面はA類で全体的に焼けている。規模は長径63cm、短径57cm、深さは27cmである。主軸方位はN-46°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-10 (第12図)

A地区M-12区で検出された炉穴である。平面形は4類に近く、床面はE類で焼けている。規模は長径121cm、短径73cm、深さは20cmである。主軸方位はN-6°-Eである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-11 (第12図)

A地区M-12区で検出された炉穴である。一部は調査区外であるが、平面形は4類をなすものと思われ、床面はD類で最深部以外が焼けている。規模は長径91cm、短径55cm以上、深さは35cmである。主軸方位はN-86°-Wである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃のものと思われる。

#### S F-12 (第13図)

A地区M-12区で検出された炉穴である。平面形は3類に近く、床面はC2類で最深部付近が焼けている。規模は長径142cm、短径84cm、深さは32cmである。主軸方位はN-9°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-13 (第12図)**

A地区N-12区で検出された炉穴である。平面形は3類に近く、床面はC2類で最深部手前が焼けている。規模は長径105cm、短径59cm、深さは29cmである。主軸方位はN-12°-Eである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃のものと思われる。

**S F-14 (第14図)**

A地区N-12区で検出された炉穴である。平面形は2類をなし、北側壁面がオーバーハングしている。床面はC2類で最深部以外の床面や壁面が焼けている。規模は長径160cm、短径59cm、深さは33cmである。主軸方位はN-86°-Wである。埋土は橙褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃のものと思われる。床面を深く断ち割ったが、染み込み等は確認できなかった。

**S F-15 (第13図)**

A地区N-12区で検出された炉穴である。天井が残るいわゆる煙道付炉穴である。平面形は1類に近いが、床面はE類で中央部がやや高く、煙出と床面中央の天井部下が焼けている。天井は幅41cm、厚さ31cmである。煙出は64cm×57cmの円形で、焚口は115cm×67cmの台形に近い形をしている。天井下は36cm×26cmのトンネルになっている。規模は長径166cm、短径112cm、深さは65cmである。主軸方位はN-62°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃のものと思われる。

**S F-16・17 (第15図)**

A地区N-12区で検出された複数基が重複している炉穴である。調査では2基の重複が確認できたが、焼土位置、床面の形状から同じ焚口を利用した3基構造である可能性が高い。各基の先後関係はよくわかっていない。全体の平面形は5類で、床面はF類で3箇所の焼土が確認されている。規模は長径291cm、短径199cm、深さは36cmである。

次に1基ごとにみよう。SK-16は主軸方向がN-46°-Wの炉穴で、平面形は2類と思われ、床面でみるとC1類に近く最深部手前が焼けている。規模は長径約230cm、短径約75cm、深さは36cmである。埋土は黒色砂質土である。出土遺物には押型文土器、撫糸文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。SK-16とSK-17は炉穴埋土の状況からSK-16の方が古い可能性があるが、断定はできない。

SK-17は南北に2基に分かれるようであるが、調査では区別できなくて先後関係はわからない。SK-17①は主軸方向がN-67°-Eの炉穴で、平面形は3類になるものと思われ、床面でみるとE類に近く、端の最深部以外は焼けている。規模は長径約140cm、短径約75cm、深さは26cmである。SK-17②は主軸方向がN-17°-Eの炉穴で、平面形は3類と思われ、床面でみるとE類に近い。規模は長径約130cm、短径約63cm、深さは24cmである。SK-17の埋土は赤褐色砂質土で、出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-18** (第13図)

A地区N-12区で検出された炉穴である。一部現代溝で壊されているが、平面形は3類をなすものと思われ、床面はB類で端以外は焼けている。規模は長径52cm以上、短径57cm、深さは16cmである。主軸方位はN-82°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-19** (第14図)

A地区N-13区で検出された炉穴である。他の土壤と重複しているため把握し難いが、平面形は4類に近く、床面はB類で最深部手前が全体的に焼けている。床面からは土器がまとまって出土している。長方形の部分のみを炉穴とみると、規模は長径93cm、短径47cm、深さは40cmである。主軸方位はN-25°-Eである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器と台石があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-20** (第16図)

A地区N-13区で検出された炉穴である。一部は調査区外であるが、平面形は1類に近いものと推測され、床面はD類で東端が焼けている。規模は長径137cm以上、短径67cm以上、深さは29cmである。主軸方位はN-47°-Eである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃のものと思われる。

**S F-21** (第16図)

A地区O-13区で検出された炉穴である。一部は調査区外で、他土壤が重複している。平面形は5類で、床面はF類で部分的に焼けている。規模は長径130cm以上、短径95cm以上、深さは12cmである。主軸方位はN-56°-Wである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃のものと思われる。

**S F-22** (第17図)

A地区O-12区で検出された炉穴である。平面形は3類に近く、床面はC2類で最深部以外は焼けている。規模は長径145cm、短径75cm、深さは35cmである。主軸方位はN-63°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には縄文・押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-23** (第14図)

A地区O-12区で検出された炉穴である。平面形は3類に近く、床面はC2類で最深部手前が焼けている。規模は長径111cm、短径97cm、深さは30cmである。主軸方位はN-49°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F -24 (第17図)**

A地区O-12区で検出された炉穴である。一部はS B - 1で壊されており、住居床面にS F - 24の焼土が一部残っている。平面形は3類で、床面はB類で最深部手前が焼けている。規模は長径111cm以上、短径60cm、深さは29cmである。主軸方位はN - 51° - Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃のものと思われる。

**S F -25 (第15図)**

A地区O-12区で検出された炉穴である。平面形は3類に近く、床面はA類であるが、焼けてはいない。規模は長径35cm、短径33cm、深さは13cmである。主軸方位はN - 48° - Eである。埋土は赤褐色砂質土で、焼土が多くみられた。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F -26 (第16図)**

A地区O-12区で検出された炉穴である。一部はS B - 1と重複するが、先後関係は把握できていない。平面形は3類で、床面はD類で側面の一部が焼けている。規模は長径203cm以上、短径139cm、深さは56cmである。主軸方位はN - 66° - Eである。埋土は黒色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F -27 (第14図)**

A地区O-12区で検出された炉穴である。平面形は3類で、床面はA類であるが、焼けてはいない。規模は長径54cm、短径46cm、深さは17cmである。主軸方位はN - 59° - Eである。埋土は燈褐色砂質土で、焼土が多くみられた。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F -28 (第17図)**

A地区O-12区で検出された2基が重複している炉穴である。先後関係は方形のS F - 28①の後にS F - 28②がつくられて集石が入れられている。1基ごとにみると、S K - 28①は主軸方向がN - 80° - Eの炉穴で、平面形は4類で、床面はA類で、側面が焼けている。規模は長径89cm、短径42cm、深さは35cmである。S K - 28②は主軸方向がN - 31° - Wの炉穴で、平面形は3類に近く、床面はA類である。規模は長径161cm、短径92cm、深さは27cmである。S K - 28の埋土は赤褐色砂質土で、出土遺物には押型文土器、撚糸文土器や台石があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F -29 (第16図)**

A地区O-12区で検出された炉穴である。平面形は4類で、床面はE類であり、中央付近が焼けている。規模は長径95cm、短径51cm、深さは17cmである。主軸方位はN - 2° - Wである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F-30** (第16図)

A地区O-13区で検出された炉穴である。平面形は3類で、床面はC2類であり、西端側面の一部が焼けている。規模は長径98cm、短径50cm、深さは40cmである。主軸方位はN-55°-Eである。埋土は黒色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F-31** (第18図)

A地区O-13区で検出された炉穴で、一部他の土壙と重複している。平面形は1類で、床面はC1類であり、最深部手前が焼けている。規模は長径177cm、短径124cm、深さは51cmである。主軸方位はN-40°-Eである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-32** (第17図)

A地区O-13区で検出された炉穴で、一部は調査区外である。平面形は3類で、床面はC2類であり、最深部以外が焼けている。規模は長径67cm以上、短径57cm、深さは30cmである。主軸方位はN-31°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-33** (第18図)

A地区O-13区で検出された炉穴で、一部は調査区外である。平面形は3類で、床面はC2類であり、最深部以外が焼けている。規模は長径150cm、短径62cm、深さは33cmである。主軸方位はN-62°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器や撲糸文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-34** (第20図)

A地区O-13区で検出された炉穴である。平面形は3類に近く、床面はD類であり、側面の一部が焼けている。規模は長径143cm、短径92cm、深さは30cmである。主軸方位はN-52°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-35** (第17図)

A地区O-13区で検出された炉穴である。平面形は4類に近く、床面はD類であり、側面の一部が焼けている。規模は長径98cm、短径52cm、深さは22cmである。主軸方位はN-1°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-36** (第19図)

A地区O-P-12区で検出された2基が重複している炉穴である。先後関係は分からず。1基ごとにみると、SK-36①は主軸方向がN-5°-Eの炉穴で、平面形は1類で、床面はC1類で、床

及び側面が部分的に焼けている。規模は長径250cm、短径151cm、深さは47cmである。SK-36②は主軸方向がN-75°-Wの炉穴で、平面形は3類に近く、床面はC2類である。規模は長径150cm以上、短径82cm、深さは33cmである。SK-36の埋土は暗灰色砂質土で、出土遺物には押型文土器と不明土製品があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-37 (第21図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。天井が残るいわゆる煙道付炉穴である。平面形は3類に近く、床面はE類であるが中央部がやや高く、床面中央の天井部下が焼けて、17cm×11cmの礫が1個置かれている。天井は幅15cm、厚さ13cmである。天井は調査中に崩落している。煙出は72cm×52cmの惰円形で、焚口は72cm×72cmの台形近い形をしている。天井下は52cm×30cmのトンネルになっている。規模は長径153cm、短径72cm、深さは45cmである。主軸方位はN-25°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器、撚糸文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-38 (第20図)

A地区O-12区で検出された炉穴である。平面形は4類に近く、床面はC2類である。最深部手前が焼けており、そこに22cm×13cmの台石が1個出土している。規模は長径118cm、短径68cm、深さは34cmである。主軸方位はN-77°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器と台石があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-39 (第20図)

A地区O・P-13区で検出された炉穴である。平面形は2類に近く、床面はE類である。掘り込み以外は焼けており、床から3個の土器が出土している。規模は長径159cm、短径67cm、深さは33cmである。主軸方位はN-67°-Eである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器、撚糸土器などがあり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-40 (第18図)

A地区P-13区で検出された炉穴で、一部は他の土壤と重複している。平面形は1類に近く、床面はC1類に近くて最深部以外は焼けている。規模は長径105cm、短径71cm、深さは28cmである。主軸方位はN-29°-Eである。埋土は暗燈褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-41 (第18図)

A地区P-13区で検出された炉穴で、一部は調査区外である。平面形は3類と思われ、床面はC1類に近くて最深部以外は焼けている。規模は長径72cm以上、短径60cm、深さは21cmである。主軸方位はN-7°-Eである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器などがあり、時期

は早期前葉の大川式薪平型と思われる。

#### S F-42 (第18図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は3類で、床面はA類で側面が一部焼けている。規模は長径50cm、短径44cm、深さは10cmである。主軸方位はN-67°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-43 (第22図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は2類で、床面はD類で、床と側面が一部焼けている。規模は長径176cm、短径65cm、深さは51cmである。主軸方位はN-1°-Eである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器、撫糸土器などがあり、時期は早期前葉の大川式薪平型と思われる。

#### S F-44 (第20図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は3類で、床面はA類で全面が焼けている。規模は長径67cm、短径50cm、深さは10cmである。主軸方位はN-81°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には撫糸土器があり、時期は早期前葉の大川式薪平型と思われる。

#### S F-45 (第20図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は4類で、床面はC2類で最深部手前が一部焼けている。規模は長径107cm、短径62cm、深さは30cmである。主軸方位はN-13°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-46 (第23図)

A地区P-13区で検出された炉穴である。平面形は3類で、床面はB類で側面の一部焼けている。規模は長径126cm、短径105cm、深さは24cmである。主軸方位はN-74°-Eである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-47 (第20図)

A地区P-13区で検出された炉穴で、大半は調査区外である。平面形は4類に近いものと思われ、床面はA類である。規模は長径111cm、短径38cm以上、深さは10cmである。主軸方位はN-79°-Eである。埋土は茶褐色砂質土で、焼土が混ざる。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式薪平型と思われる。

#### S F-48 (第23図)

A地区P-12区で検出された炉穴で、一部は調査区外である。平面形は3類に近いものと思われ、

床面はA類で、南側侧面を中心にして焼けている。規模は長径113cm以上、短径61cm、深さは25cmである。主軸方位はN-26°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-49 (第21図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は4類に近いものと思われ、床面はA類に近くて東端付近が焼けている。規模は長径126cm、短径62cm、深さは13cmである。主軸方位はN-35°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には撚糸文土器などがあり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-50 (第21図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は3類に近いものと思われ、床面はC1類に近くて最深部手前が焼けている。規模は長径113cm、短径62cm、深さは45cmである。主軸方位はN-16°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器、撚糸文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-51 (第21図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は4類で、床面はA類に近くて中央及び側面が焼けている。規模は長径89cm、短径50cm、深さは30cmである。主軸方位はN-67°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器などがあり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-52 (第22図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は2類に近いものと思われ、床面はA類で全面的に焼けている。規模は長径110cm、短径54cm、深さは12cmである。主軸方位はN-33°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-53 (第21図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は3類、床面はC2類で、北側側面が焼けている。規模は長径75cm、短径55cm、深さは9cmである。主軸方位はN-51°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-54 (第23図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は4類で、床面はA類に近くて全面的に焼けている。規模は長径71cm、短径43cm、深さは12cmである。主軸方位はN-83°-Eである。埋土は赤褐

色砂質土である。出土遺物には押型文土器などがあり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-55 (第22図)

A地区P-12区で検出された炉穴である。平面形は3類に近いものと思われ、床面はA類で中央付近が焼けている。規模は長径120cm、短径62cm、深さは8cmである。主軸方位はN-57°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器、繩文土器などがあり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### S F-56 (第23図)

A地区P-12区で検出された炉穴で、SD-8と一部重複している。平面形は2類に近いものと思われ、床面はA類で両端付近が焼けている。規模は長径116cm以上、短径59cm、深さは8cmである。主軸方位はN-35°-Wである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-57 (第23図)

A地区P-12区で検出された炉穴で、他の土壌と一部重複している。平面形は4類に近いものと思われ、床面はA類で側面が焼けている。規模は長径115cm、短径52cm以上、深さは22cmである。主軸方位はN-17°-Eである。埋土は赤褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-58 (第24図)

A地区P-12区で検出された炉穴で、他の土壌で一部壊されている。平面形は3類に近いものと思われ、床面はC1類で最深部手前が焼けている。規模は長径85cm以上、短径43cm、深さは13cmである。主軸方位はN-22°-Wである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-59 (第22図)

A地区Q-12区で検出された炉穴である。平面形は2類に近いものと思われ、床面はC1類で側面の一部が焼けている。規模は長径115cm、短径39cm、深さは25cmである。主軸方位はN-42°-Wである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### S F-60 (第22図)

A地区Q-12区で検出された炉穴で、SB-2と重複し、一部はSD-8で部壊されている。平面形は3類に近いものと思われ、床面はA類で側面が焼けている。規模は長径54cm以上、短径68cm、深さは18cmである。主軸方位はN-41°-Eである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F -61** (第24図)

A地区Q-12区で検出された炉穴である。平面形は2類に近いものと思われ、床面はB類で床の殆どが焼けている。規模は長径115cm、短径51cm、深さは12cmである。主軸方位はN-89°-Wである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F -62** (第24図)

A地区Q-12区で検出された炉穴で、他の土壙と重複している。平面形は3類に近いものと思われ、床面はC2類で最深部手前が焼けている。規模は長径122cm、短径52cm、深さは22cmである。主軸方位はN-47°-Eである。埋土は黒色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F -63・64** (第25図)

A地区Q-12区で検出された2基が重複している炉穴である。先後関係はわかっていない。SK-63は他の土壙とも重複している。平面形は3類に近いものと思われ、床面はC2類で最深部手前と側面が焼けている。規模は長径137cm、短径60cm以上、深さは43cmである。主軸方位はN-69°-Eである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器、撚糸文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

SK-64は主軸方向がN-1°-Eの炉穴で、平面形は3類に近く、床面はC1類である。規模は長径122cm、短径67cm以上、深さは25cmである。埋土は茶褐色砂質土で、出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F -65** (第24図)

A地区Q-12区で検出された炉穴である。平面形は2類で、床面はC2類で最深部側面が焼けている。規模は長径118cm、短径52cm、深さは39cmである。主軸方位はN-67°-Eである。埋土は黒色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F -66** (第24図)

A地区Q-12区で検出された炉穴である。平面形は4類に近く、床面はD類である。規模は長径111cm、短径68cm、深さは29cmである。主軸方位はN-52°-Wである。埋土は燈褐色砂質土である。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S F -67** (第24図)

A地区Q-12区で検出された炉穴で、他の土壙が重複している。平面形は3類で、床面は他土壙で壊されているが本来はC1類と思われ、端部以外は焼けている。規模は長径85cm、短径57cm、深さは27cmである。主軸方位はN-5°-Eである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-68（第25図）**

A地区Q-13区で検出された炉穴で、他の土壌に壊されている。平面形は5類で、床面はF類で焼けている。規模は長径84cm以上、短径47cm以上、深さは7cmである。主軸方位はN-70°-Wである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**S F-69（第25図）**

A地区Q-13区で検出された炉穴で、一部は調査区外である。平面形は1類に近いものと思われる。床面はC1類と思われ、最深部以外は焼けている。規模は長径110cm以上、短径36cm以上、深さは27cmである。主軸方位はN-65°-Eである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

**B. 集石炉（第26～28図）**

集石炉は、平面形が円形、長楕円形などのタイプの7基が検出されている。これら集石炉は炉穴を利用してつくられているものもあり、集石炉と重複する炉穴は4基が確認されている。ここでは炉穴について、平面形と床面形態を前項の様に分類して説明する。

**S S-1（第26図）**

A地区I-12区で検出された集石炉である。炉穴（S F-70）の窪みを利用して集石炉がつくられている。S F-70は平面形は3類で、床面はA類で大半が焼けている。規模は長径105cm、短径58cm、深さは28cm、主軸方位はN-76°-Wである。埋土は燈褐色砂質土である。

集石炉はS F-70の窪地内に4cm～12cm大の礫を二重に敷き詰めており、礫は火を受けて強く焼けている。集石は円形で約90cm×80cmの範囲で敷かれている。出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S S-2（第27図）**

A地区N-12区で検出された集石炉である。炉穴（S F-71）の窪みを利用して集石炉がつくられている。S F-71は平面形は4類で、床面はA類で側面が焼けている。規模は長径90cm以上、短径63cm、深さは28cm、主軸方位はN-5°-Wである。埋土は茶褐色砂質土である。

集石炉はS F-71及び他土壌の窪地内に約130cm×90cmの楕円形範囲でつくられている。よくみると、S F-71の窪地内で東西方向の一列に15cm～30cmほどの大型の台石が並べられ、その周囲に4cm～10cm大の礫を敷いている。これら礫は火を受けて強く焼けている。集石炉からは出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

**S S-3（第26図）**

A地区N-13区で検出された集石炉である。炉穴（S F-72）の窪みを利用して集石炉がつくら

れている。S F - 72は平面形は3類で、床面はC 2類で最深部以外の床が焼けている。規模は長径123cm、短径84cm、深さは42cm、主軸方位はN - 3° - Wである。埋土は茶褐色砂質土である。

集石炉はS F - 72の窪地内に約100cm × 60cmの楕円形の範囲でつくられている。よくみると、S F - 72の窪地内で南端と北端に20cmほどの台石を置き、その周囲に4cm～15cm大の礫を敷いている。これら礫は火を受けて強く焼けている。集石炉からは出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### SS - 4 (第26図)

A地区P - 12区で検出された集石炉である。集石炉の掘り込みは平面形は橢円形で、床面は平坦である。規模は長径95cm、短径80cm、深さは17cm、主軸方位はN - 18° - Eである。埋土は暗灰褐色砂質土である。集石は掘り込み内に約75cm × 50cmの範囲で入れられている。よくみると、18cmほどの石を1個置いて、その周囲に3cm～9cm大の礫を敷いており、これら礫は火を受けて強く焼けている。集石炉の出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### SS - 5 (第27図)

A地区Q - 13区で検出された集石炉である。炉穴(S F - 73)の窪みを利用して2基の集石炉(SS - 5・6)がつくられている。S F - 73の平面形は5類で、床面はE類で床と側面の一部が焼けている。規模は長径190cm、短径105cm、深さは38cm、主軸方位はN - 34° - Eである。埋土は茶褐色砂質土である。

集石はS F - 73の南側窪地内に約80cm × 80cmの円形の範囲で敷かれている。3cm～10cm大の礫を敷いており、礫は火を受けて強く焼けている。埋土は黒灰色砂質土で、炭化物が混ざる。集石炉の出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

#### SS - 6 (第27図)

A地区Q - 13区で検出された集石炉である。炉穴(S F - 73)の北側窪みを利用してつくられている。集石はS F - 73の北側窪地内に約60cm × 50cmの橢円形の範囲で敷き詰められている。3cm～18cm大の礫を敷き詰めており、礫は火を受けて強く焼けている。埋土は暗褐色砂質土である。集石炉からは出土遺物は無いが、時期は早期前葉頃と思われる。

#### SS - 7 (第28図)

A地区Q - 12区で検出された集石炉である。炉穴(S F - 74)の窪みを利用して集石炉がつくられている。S F - 74の平面形は5類で、床面はD類で中央に径56cmの円形の掘り込みがある。南先端側面と床の一部が焼けている。規模は長径247cm、短径128cm、深さは40cm、主軸方位はN - 56° - Eである。埋土は暗茶褐色砂質土である。

集石はS F - 74の中央窪地内に約185cm × 100cmの範囲で敷き詰められている。3cm～25cm大の礫を敷き、特に中央で密集している。礫は火を受けて強く焼けている。集石埋土は暗灰色砂質土であ

る。集石炉の出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉の大川式萩平型と思われる。

### 3. 土壙（第9・10図）

土壙は、検出長4mを越える巨大な土壙をはじめ、柱穴状の小さなものまで、様々な形態のものが調査区全体から多数検出されている。これらの土壙は大半が中世～近世のものと思われ、縄文時代の土壙を特定するのは困難であった。ここでは、縄文土器のみが出土している土壙を縄文時代の土壙として説明する。なお、炉穴と形状が酷似していても、内部が焼けていない土壙が若干確認されている。これらについては土壙として扱い、この項で説明する。

#### SK-1（第9図）

A地区H-12区で検出された土壙である。平面形は長方形に近く、形状がSF-51と類似するが、内部に焼けた痕跡は確認できていない。規模は長径96cm、短径88cm、深さは23cmである。埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物は無いが、炉穴に類似した形状から時期は早期前葉の可能性がある。

#### SK-2（第9図）

A地区H-12区で検出された土壙である。平面形は長方形に近く、形状がSF-51と類似するが、内部に焼けた痕跡は確認できていない。規模は長径92cm、短径64cm、深さは27cmである。埋土は暗褐色砂質土である。出土遺物は無いが、炉穴に類似した形状から時期は早期前葉の可能性がある。

#### SK-3（第9図）

A地区H・I-12区で検出された土壙である。平面形は長方形に近く、形状がSF-51と類似するが、内部に焼けた痕跡は確認できていない。規模は長径116cm、短径104cm、深さは21cmである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物は無いが、炉穴に類似した形状から時期は早期前葉の可能性がある。

#### SK-4（第9図）

A地区N-12・13区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、床面は比較的平坦であるが、片端が円形に深く掘り下がっている。この形状はSF-30と類似するが、内部に焼けた痕跡は確認できていない。規模は長径88cm、短径44cm、深さは17cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物は無いが、炉穴に類似した形状から時期は早期前葉の可能性がある。

#### SK-5（第9図）

A地区O-12・13区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、床面は比較的平坦であるが、片端が円形に深く掘り下がっている。この形状はSF-30と類似するが、内部に焼けた痕跡は確認できていない。規模は長径92cm、短径56cm、深さは41cmである。埋土は黒色砂質土である。出土遺物

は無いが、炉穴に類似した形状から時期は早期前葉の可能性がある。

#### S K-6 (第9図)

A地区I-12区で検出された土壙である。平面形は長方形に近く、規模は長径81cm、短径64cm、深さは25cmである。埋土は暗茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

#### S K-7 (第9図)

A地区I-13区で検出された土壙である。平面形は円形で、規模は径32cm、深さは18cmである。埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

#### S K-8 (第9図)

A地区K-12区で検出された土壙である。平面形は不整形で、規模は長径2.6m、短径2.0m、深さは19cmである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

#### S K-9 (第9図)

A地区M-12区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、規模は長径48cm、短径42cm、深さは32cmである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

#### S K-10 (第9図)

A地区M-12区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、規模は長径82cm、短径48cm、深さは16cmである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

#### S K-11 (第9図)

A地区M-12区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、規模は長径40cm、短径23cm、深さは13cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

#### S K-12 (第9図)

A地区M-12区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、規模は長径45cm、短径28cm、深さは10cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-13** (第10図)

A地区N-13区で検出された土壙で、一部は調査区外である。平面形は橢円形と思われ、規模は長径16cm以上、短径15cm、深さは17cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-14** (第10図)

A地区N-12区で検出された土壙で、他の土壙と重複している。平面形は橢円形で、規模は長径64cm、短径42cm、深さは42cmである。埋土は黒色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-15** (第10図)

A地区N-12区で検出された土壙で、他の土壙と重複している。平面形は双円形で、規模は長径54cm、短径30cm、深さは12cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-16** (第10図)

A地区N-12区で検出された土壙で、他の土壙と重複している。平面形は橢円形に近く、規模は長径38cm、短径34cm、深さは24cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-17** (第10図)

A地区N-13区で検出された土壙で、他の土壙と重複している。平面形は不明で、規模は長径28cm以上、短径12cm以上、深さは18cmである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-18** (第10図)

A地区O-12区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、規模は長径90cm、短径60cm、深さは40cmである。埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器の細片があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-19** (第10図)

A地区O-12区で検出された土壙である。平面形は円形に近く、規模は長径22cm、短径19cm、深さは9cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-20** (第10図)

A地区O-13区で検出された土壙で、他の土壙と重複している。平面形は長方形に近く、規模は長径64cm以上、短径44cm、深さは48cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-21** (第10図)

A地区O-12区で検出された土壙である。平面形は三角形に近く、規模は長径40cm、短径14cm、深さは14cmである。埋土は淡茶褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-22** (第10図)

A地区P-12区で検出された土壙である。平面形は不整形で、規模は長径1.4m、短径0.8m、深さは26cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器と撫糸文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-23** (第10図)

A地区P-12区で検出された土壙である。平面形は円形に近く、規模は長径26cm、短径16cm、深さは29cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-24** (第10図)

A地区P-12区で検出された土壙で、一部は調査区外である。平面形は橢円形に近く、規模は長径104cm、短径64cm、深さは40cmである。埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器などがあり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-25** (第10図)

A地区Q-12区で検出された土壙で、一部は他の土壙と重複している。平面形は橢円形に近く、規模は長径62cm以上、短径44cm、深さは45cmである。埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器などがあり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-26** (第10図)

A地区P・Q-12区で検出された土壙で、S K-27・28など他土壙と重複している。平面形は不整形で、規模は長径1.7m、短径0.5m、深さは10cmである。埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-27** (第10図)

A地区P-12区で検出された土壙で、SK-26など他土壙と重複している。平面形は帯状に近く、規模は長径1.0m以上、短径0.4m、深さは39cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-28** (第10図)

A地区Q-12区で検出された土壙で、SK-26・27と重複しており、平面形は不明である。規模は長径0.7m以上、短径0.6m以上、深さは27cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-29** (第10図)

A地区Q-12区で検出された土壙で、一部は調査区外である。平面形は不整形で、規模は長径2.1m以上、短径1.2m、深さは34cmである。埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物には押型文土器や撚糸文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-30** (第10図)

A地区Q-12区で検出された土壙である。平面形は橢円形に近く、規模は長径34cm、短径28、深さは18cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-31** (第10図)

A地区Q-12区で検出された土壙で、他土壙と重複している。平面形は橢円形に近く、規模は長径40cm、短径12cm、深さは62cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には撚糸文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-32** (第10図)

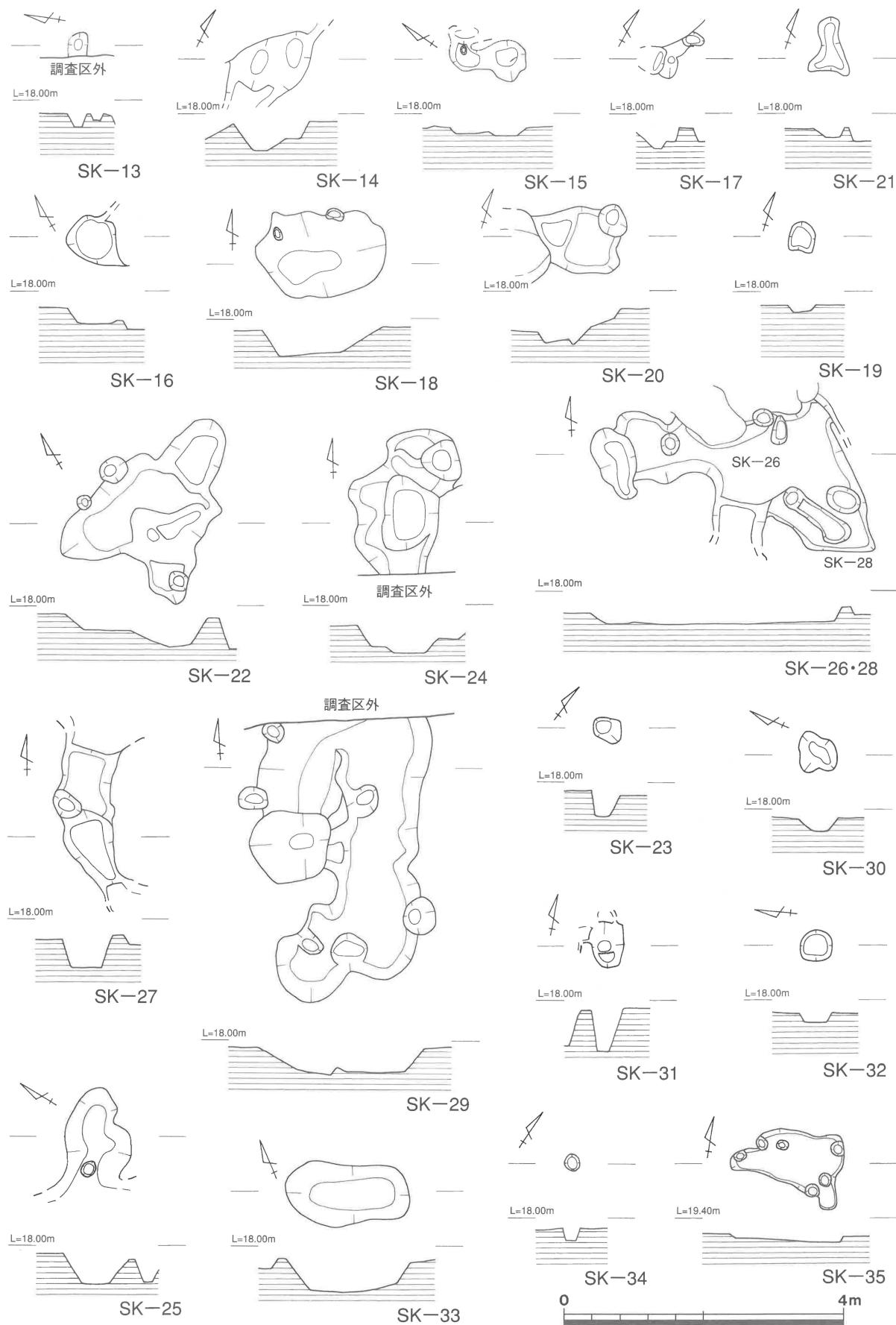
A地区Q-13区で検出された土壙である。平面形は円形に近く、規模は径22cm、深さは13cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

**S K-33** (第10図)

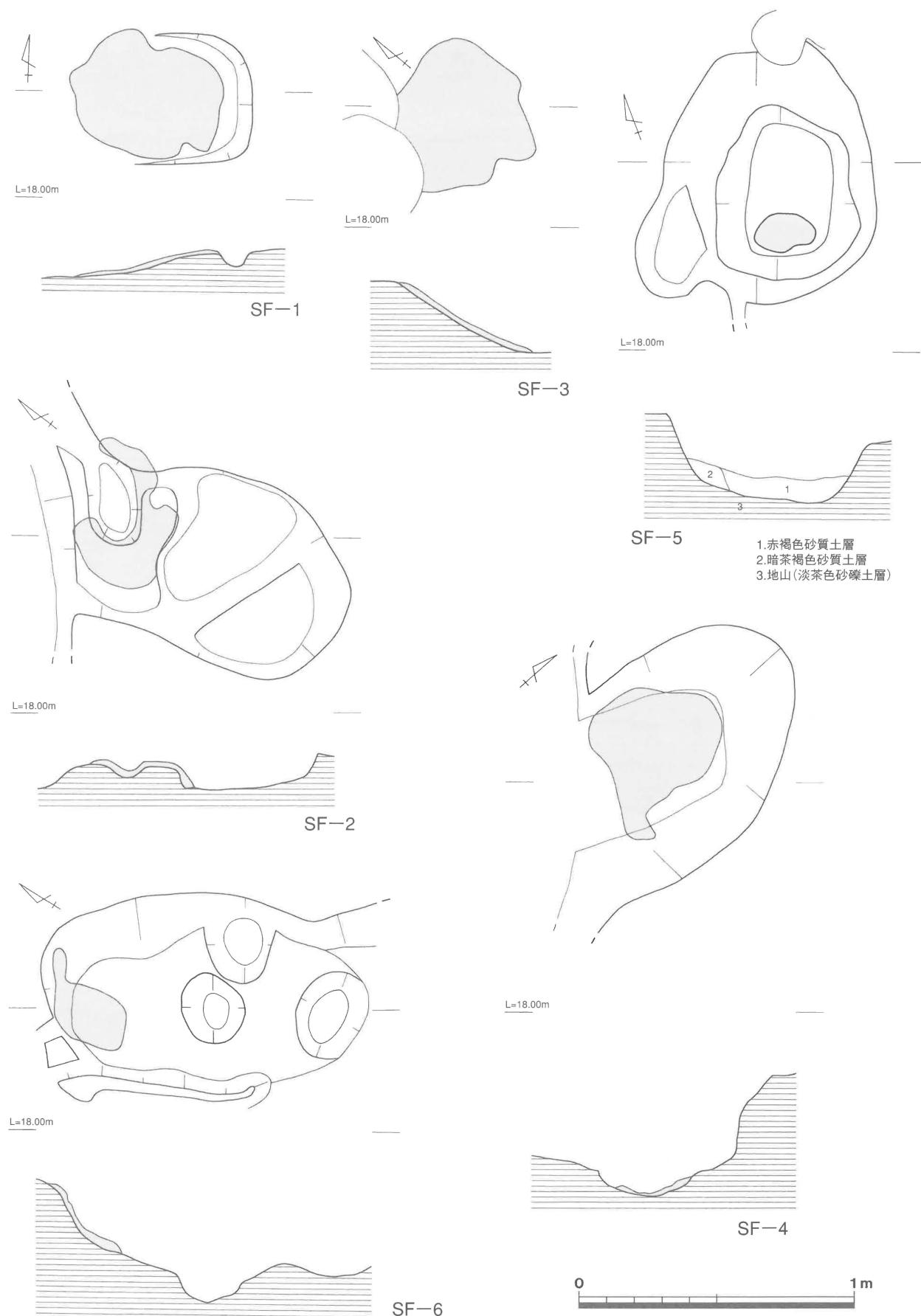
A地区Q-13区で検出された土壙である。平面形は橢円形で、規模は長径99cm、短径47cm、深さは45cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器と粘土塊があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。



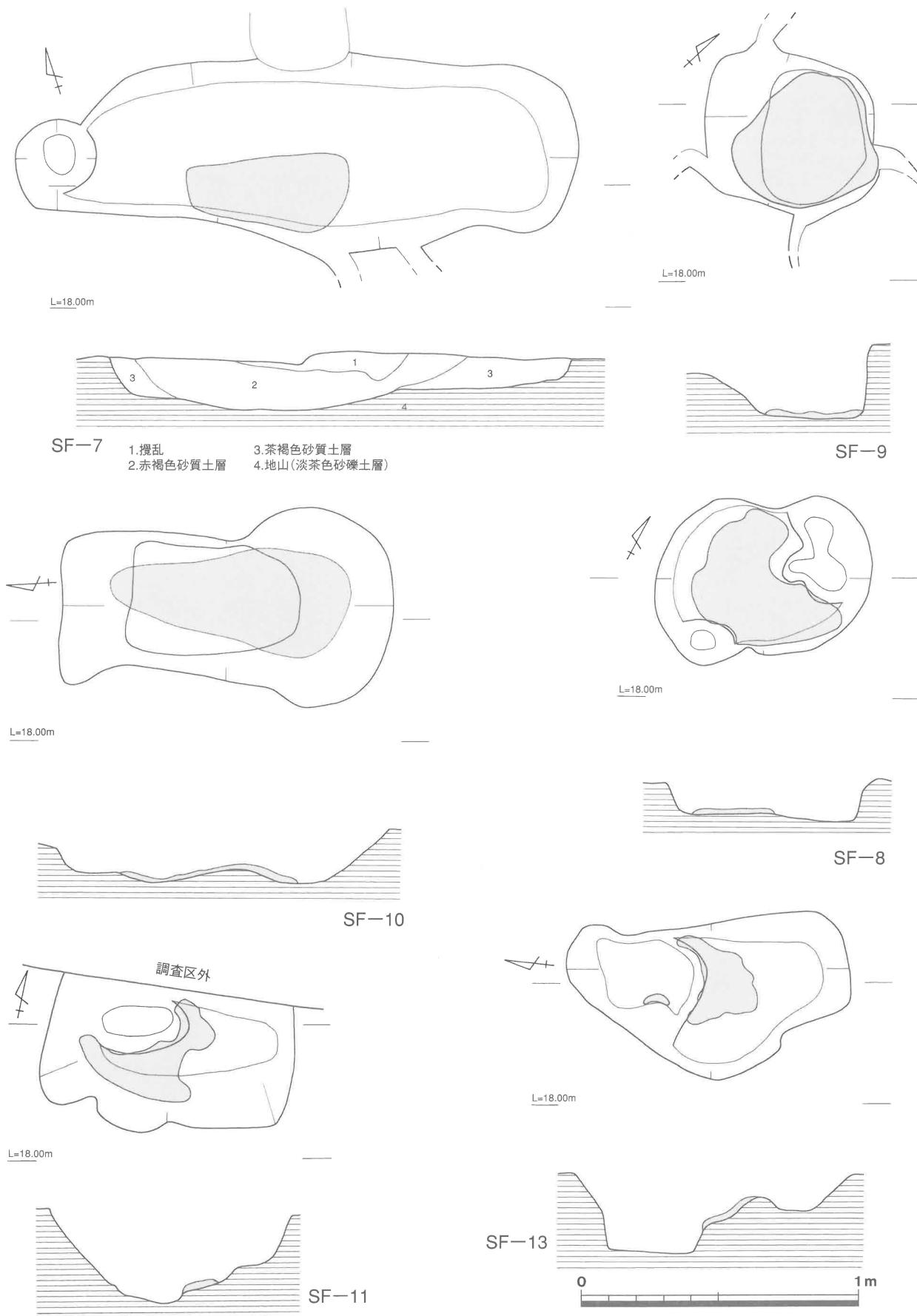
第9図 繩文時代竪穴住居・土壤実測図-1 (1/80)



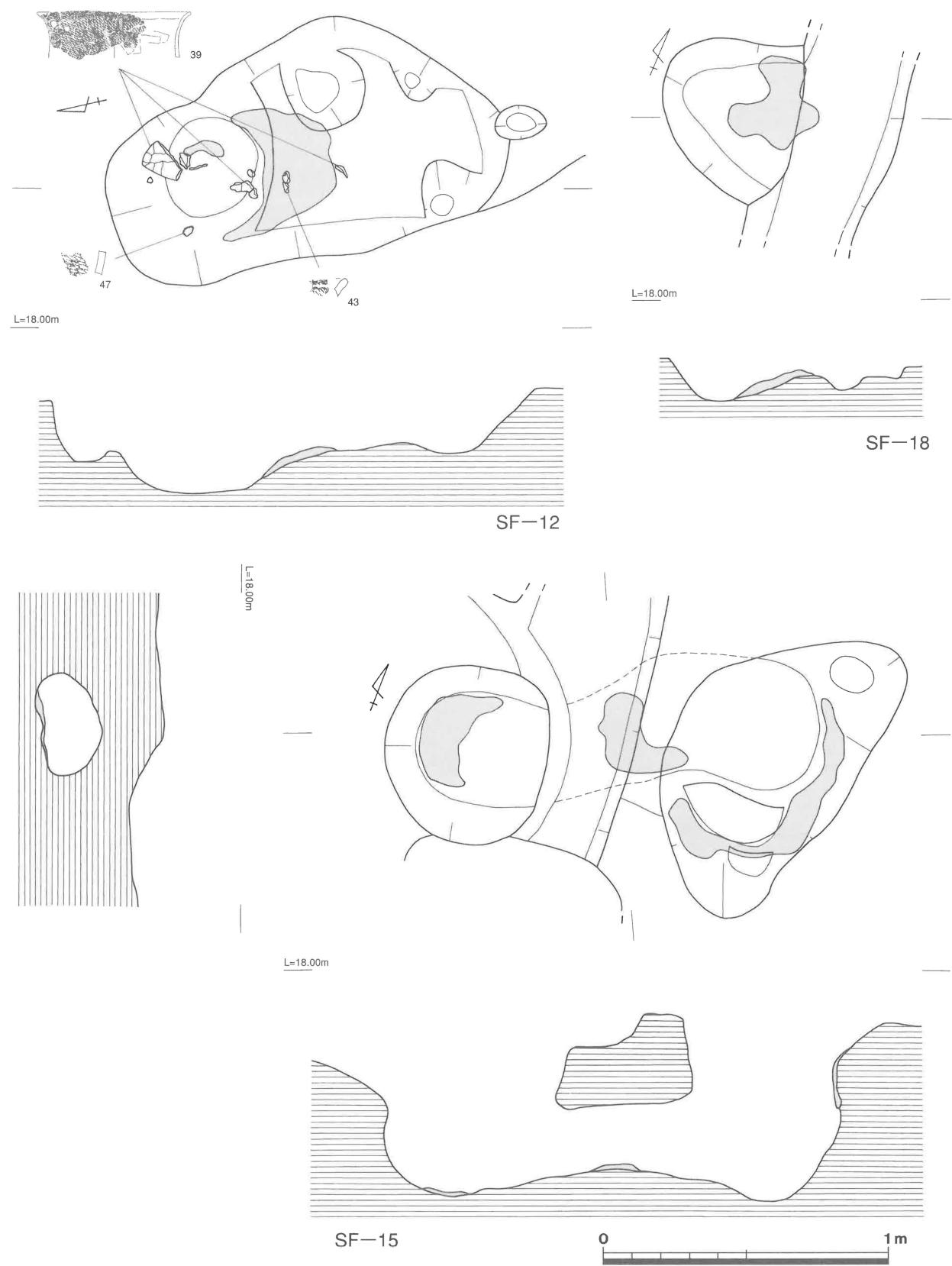
第10図 繩文時代土壌実測図－2 (1/80)



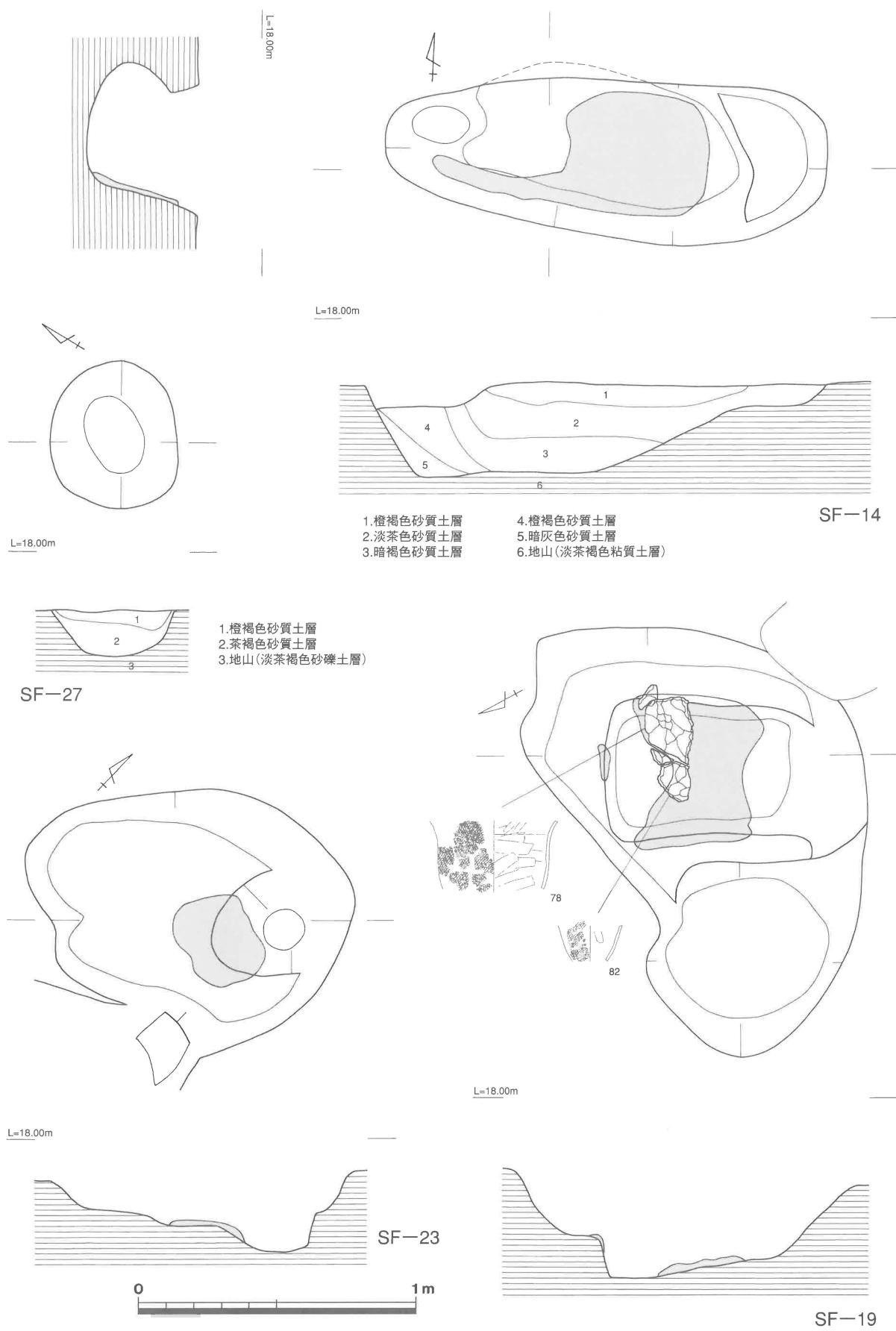
第11図 炉穴実測図-1 (1/20)



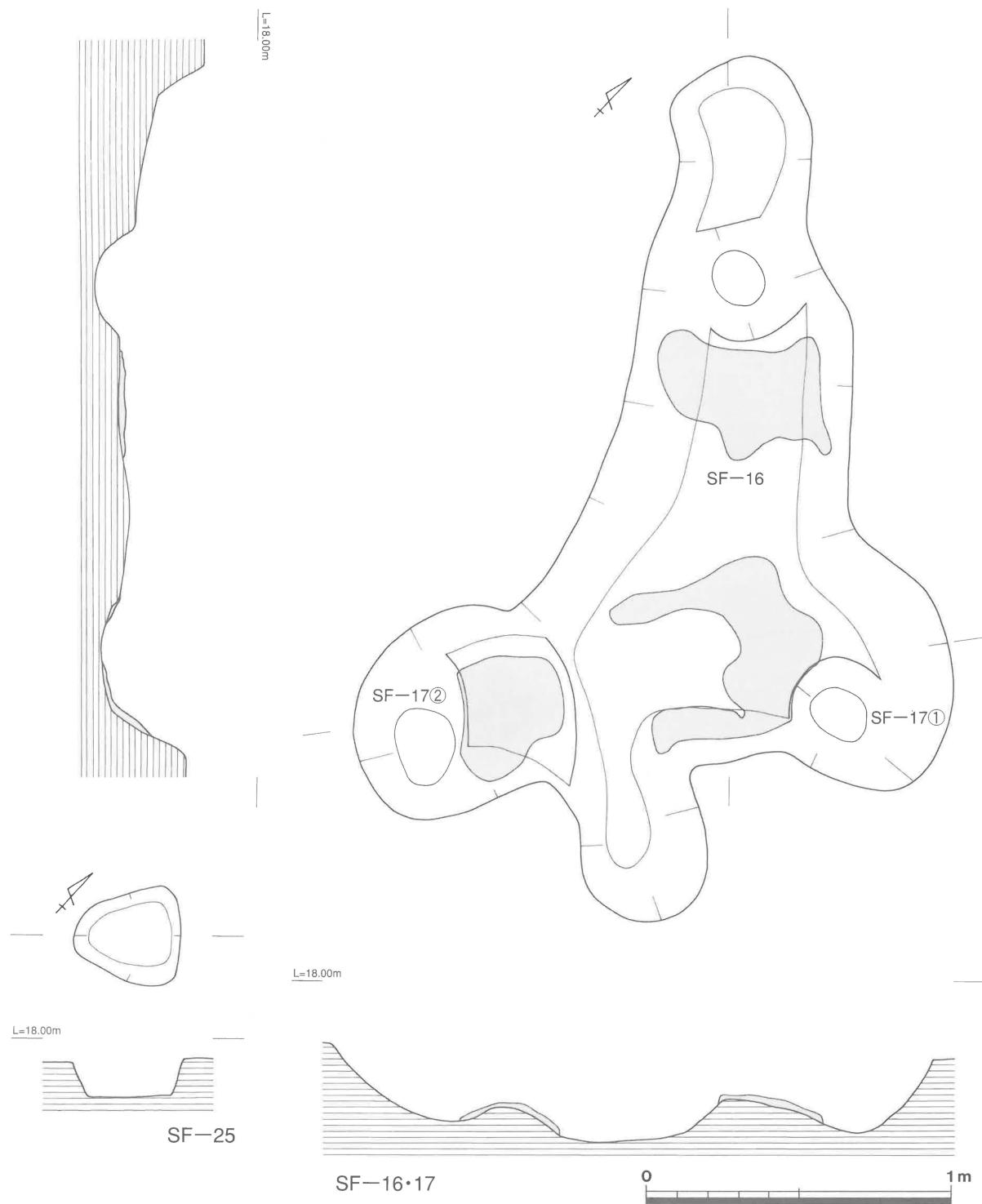
第12図 炉穴実測図-2 (1/20)



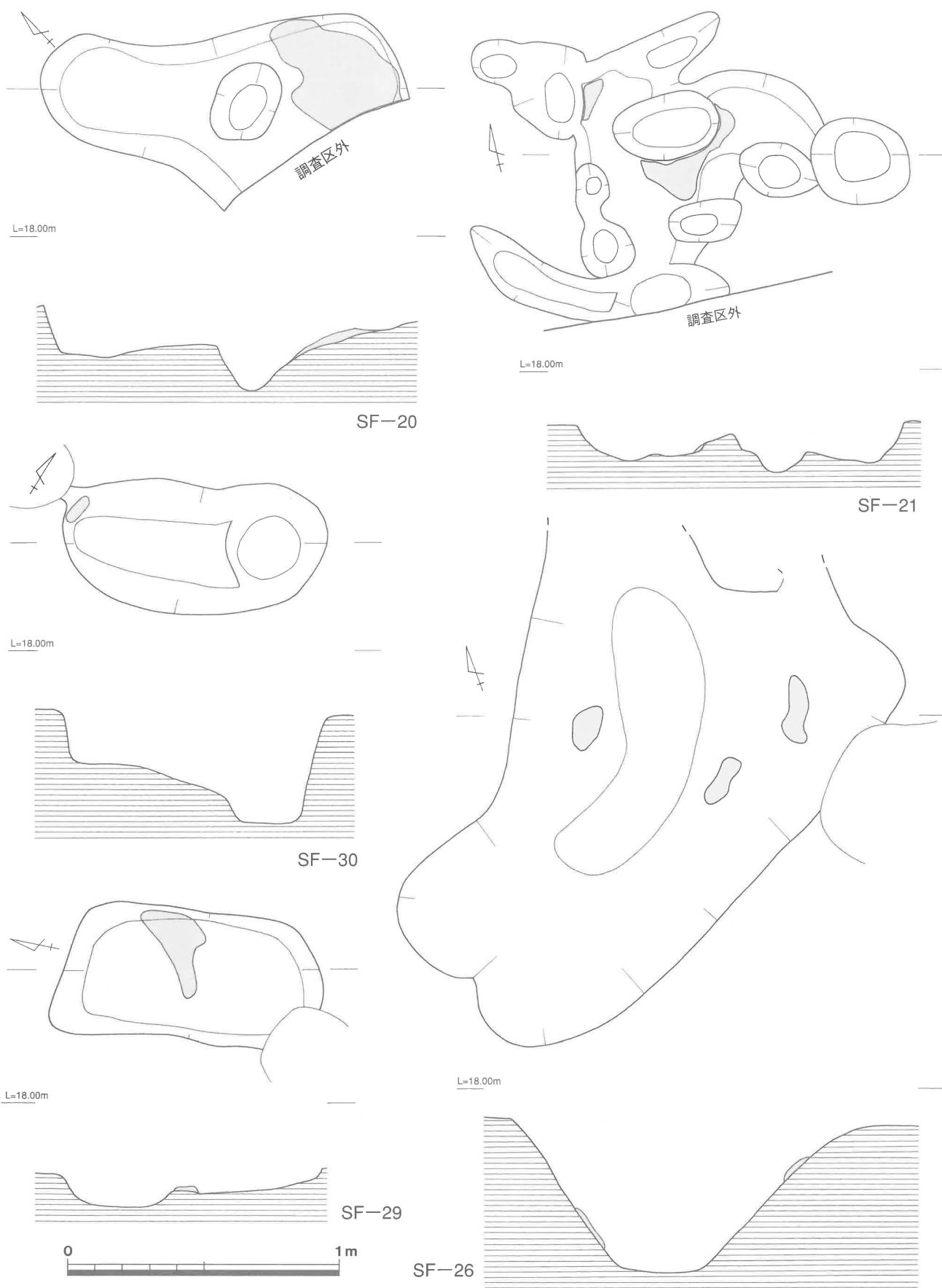
第13図 炉穴実測図一3 (1/20)



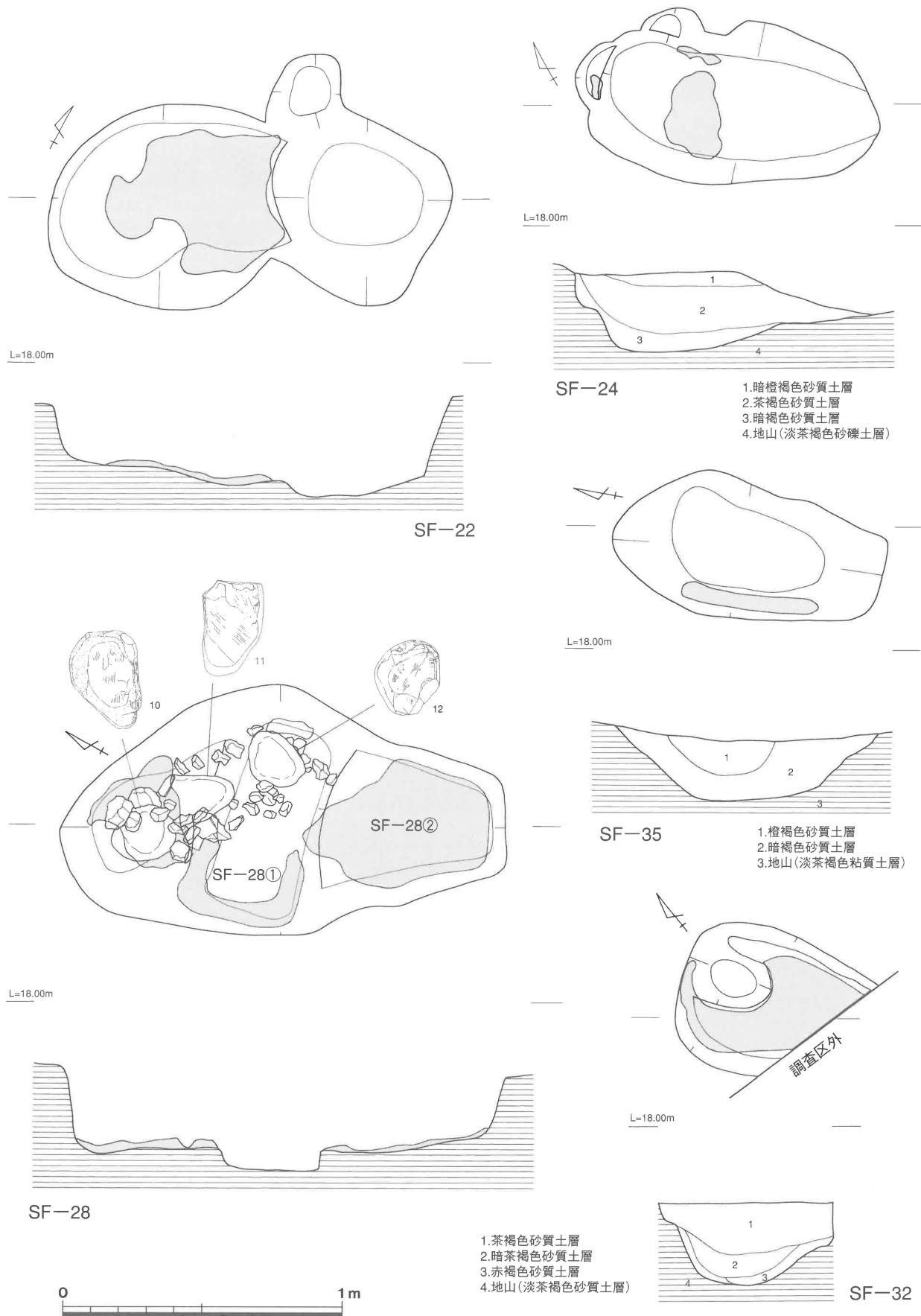
第14図 炉穴実測図-4 (1/20)



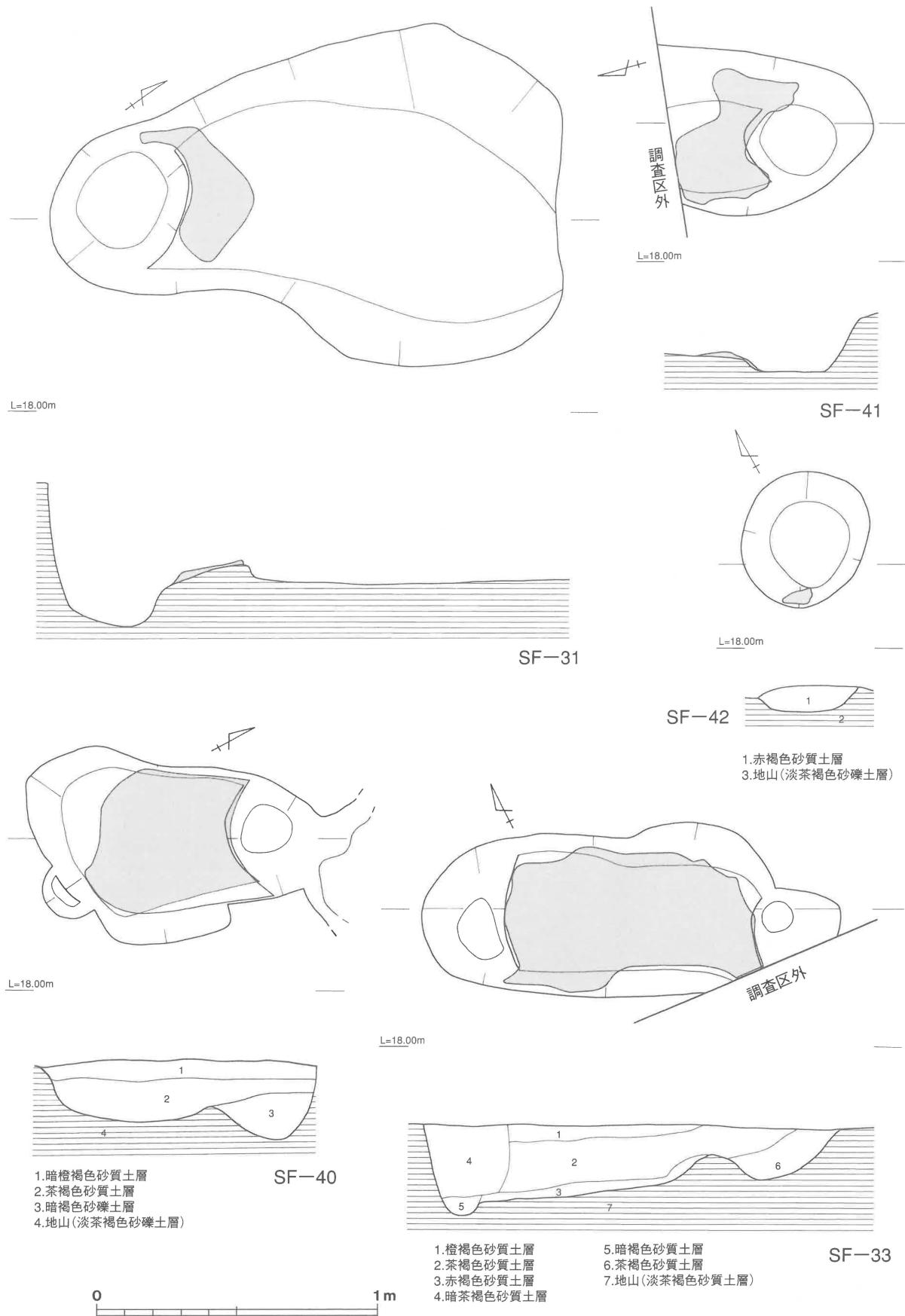
第15図 炉穴実測図一5 (1/20)



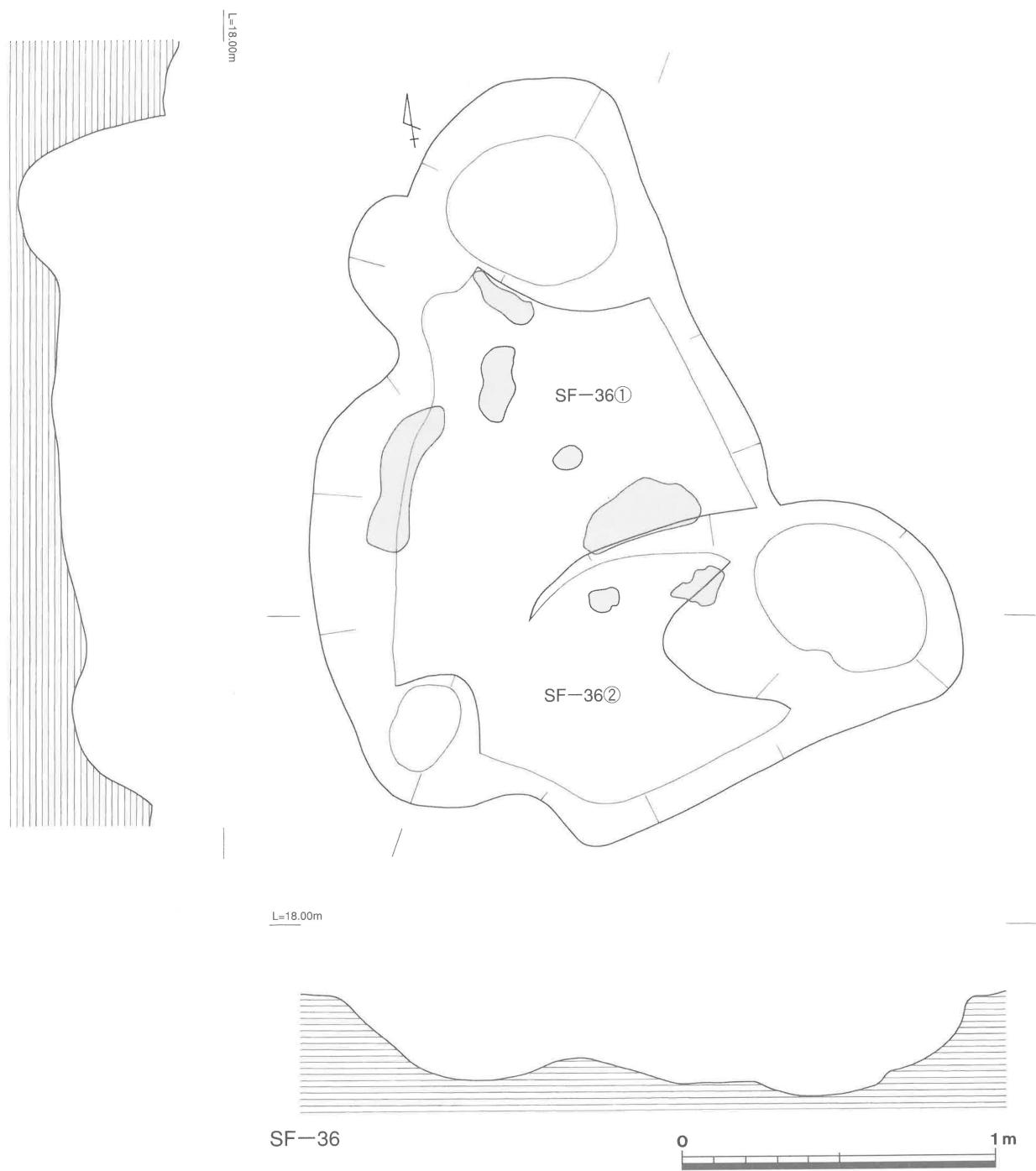
第16図 炉穴実測図-6 (1/20)



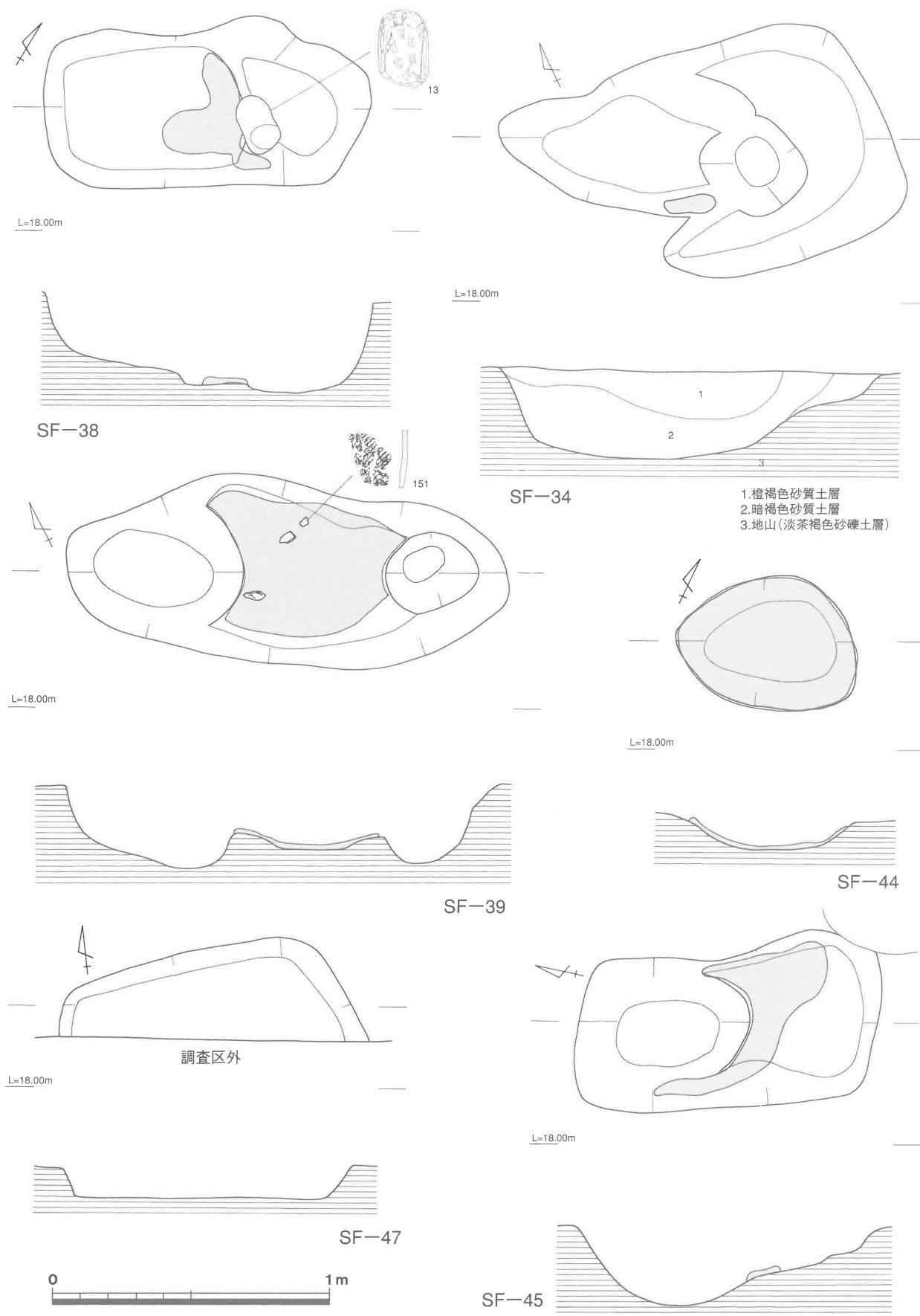
第17図 炉穴実測図一7 (1/20)



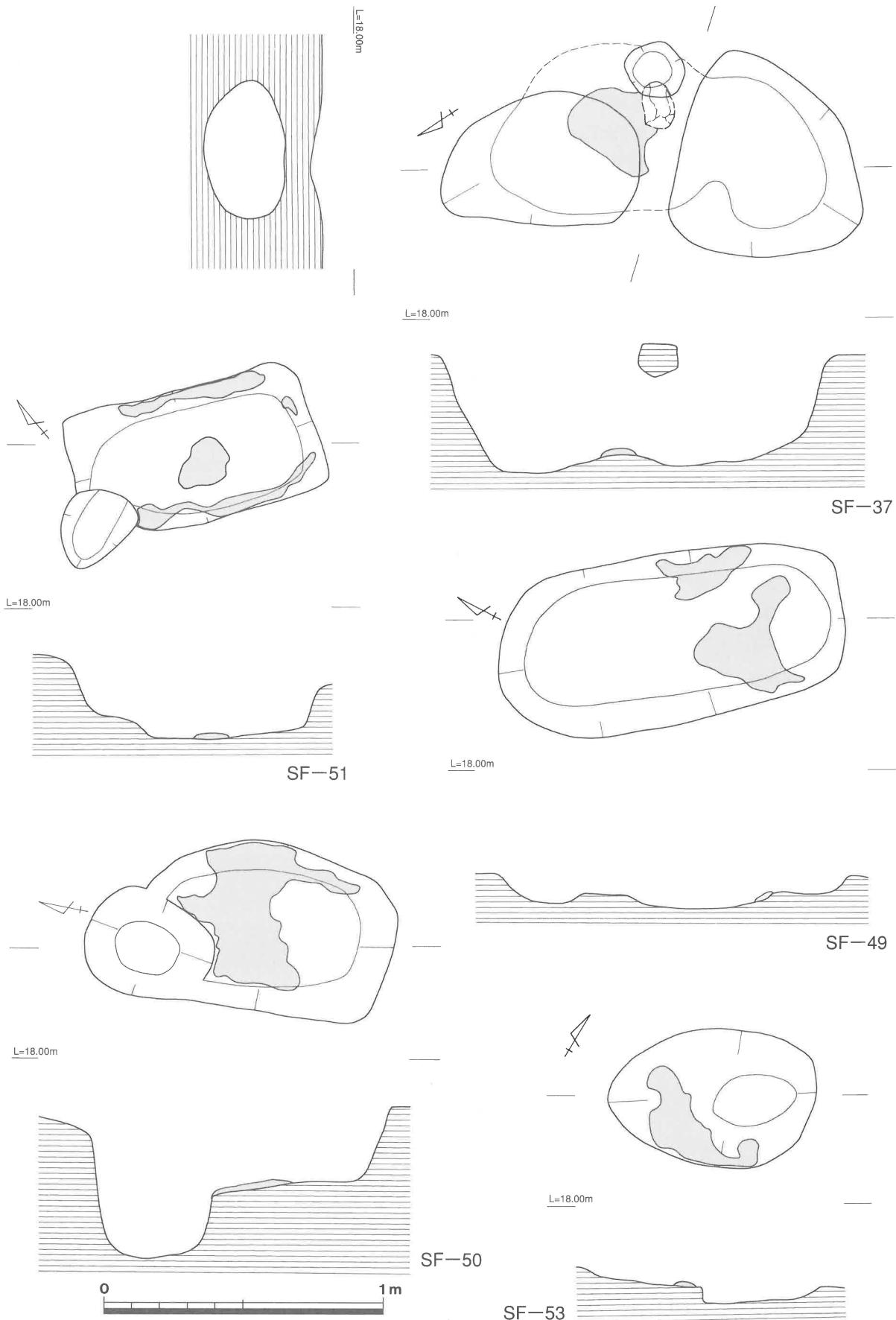
第18図 炉穴実測図一8 (1/20)



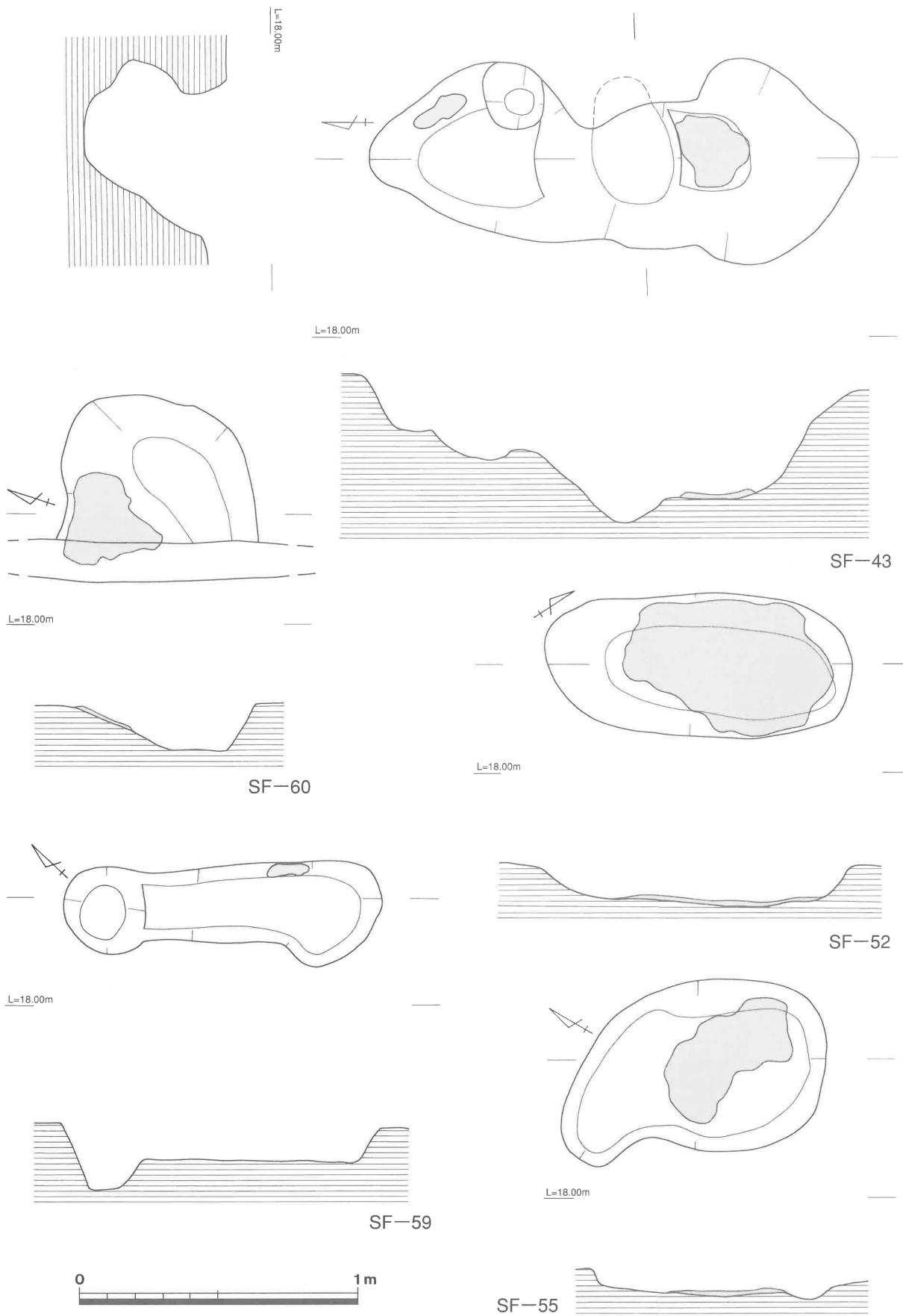
第19図 炉穴実測図一9 (1/20)



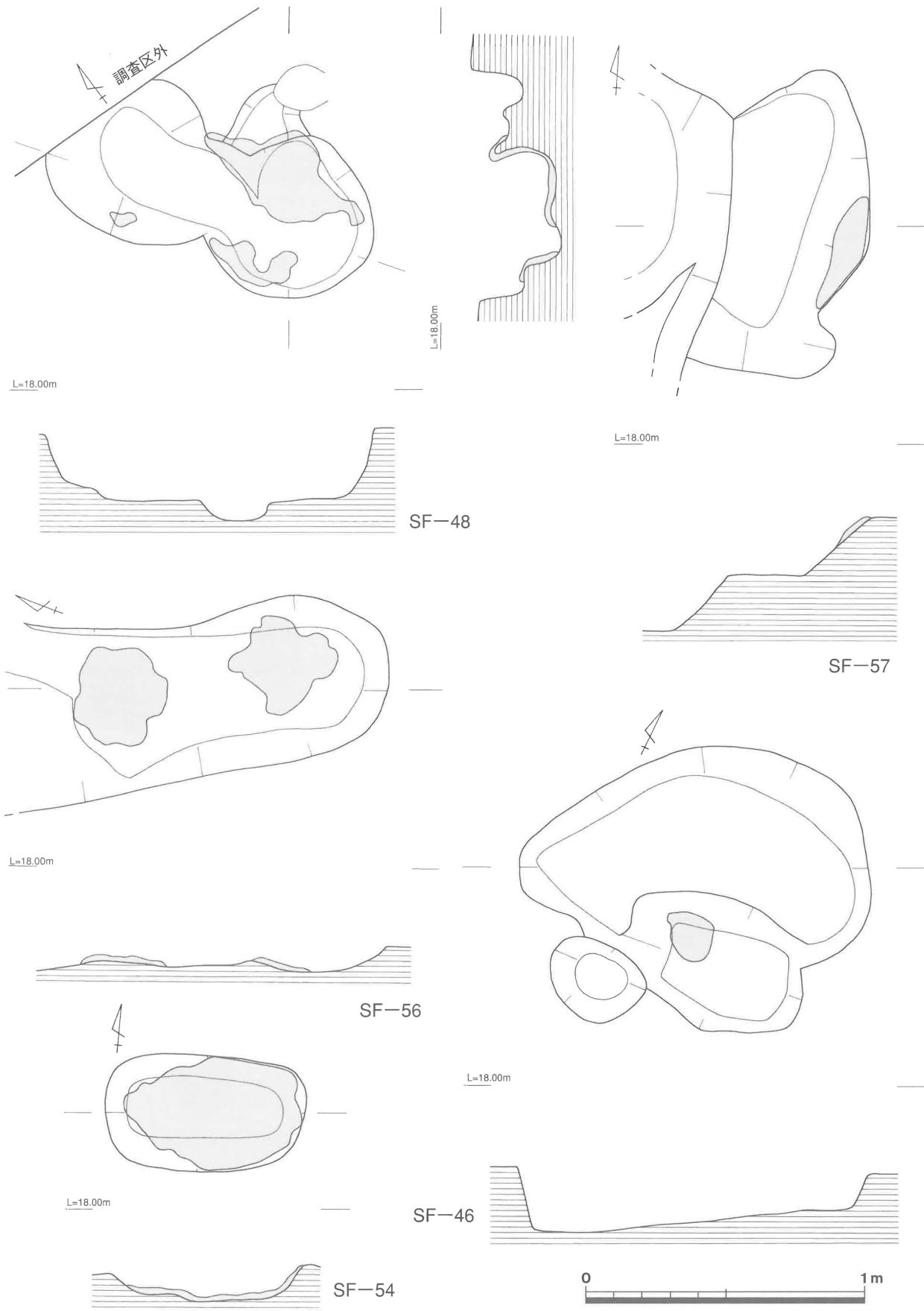
第20図 炉穴実測図-10 (1/20)



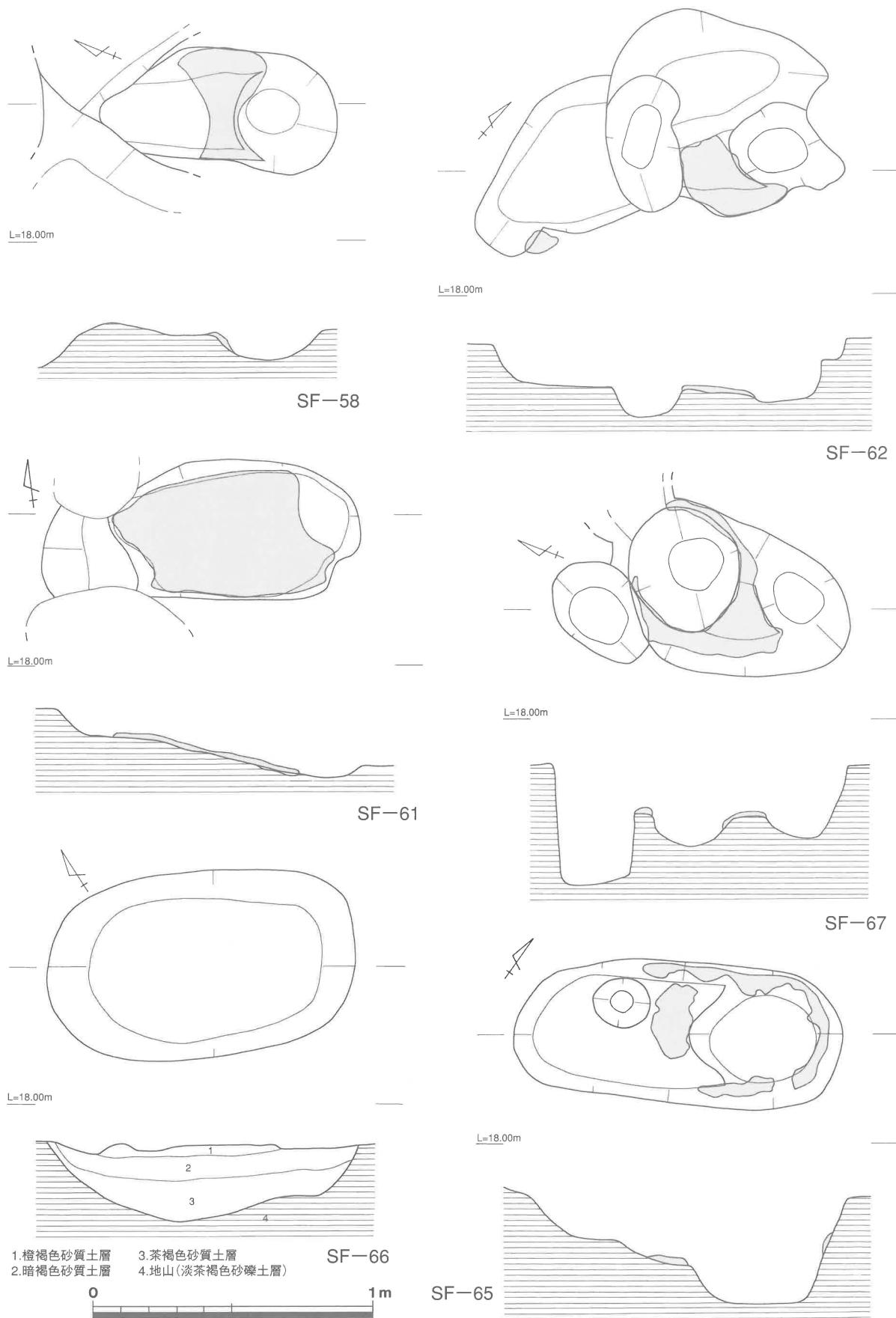
第21図 炉穴実測図-11 (1/20)



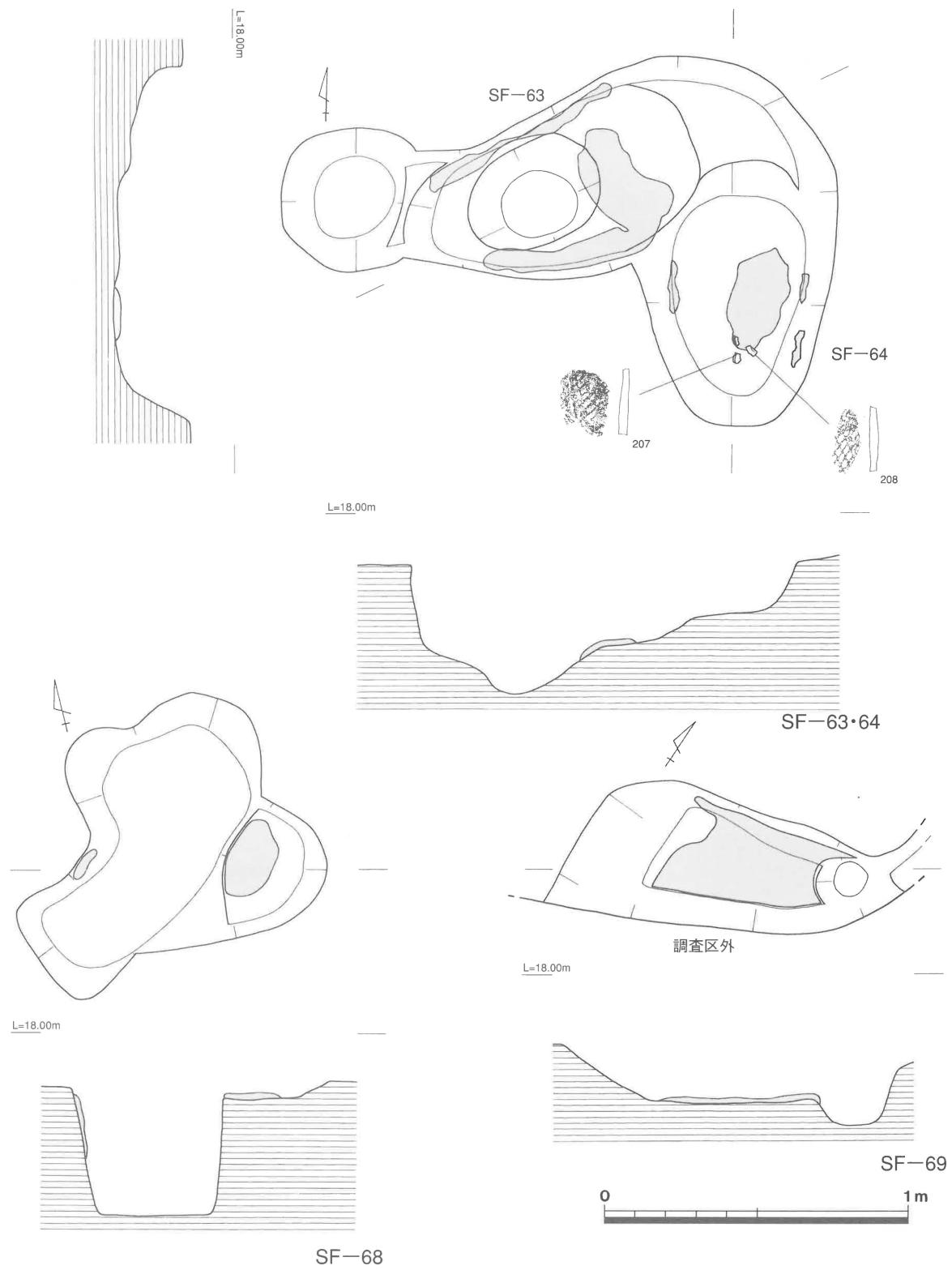
第22図 炉穴実測図-12 (1/20)



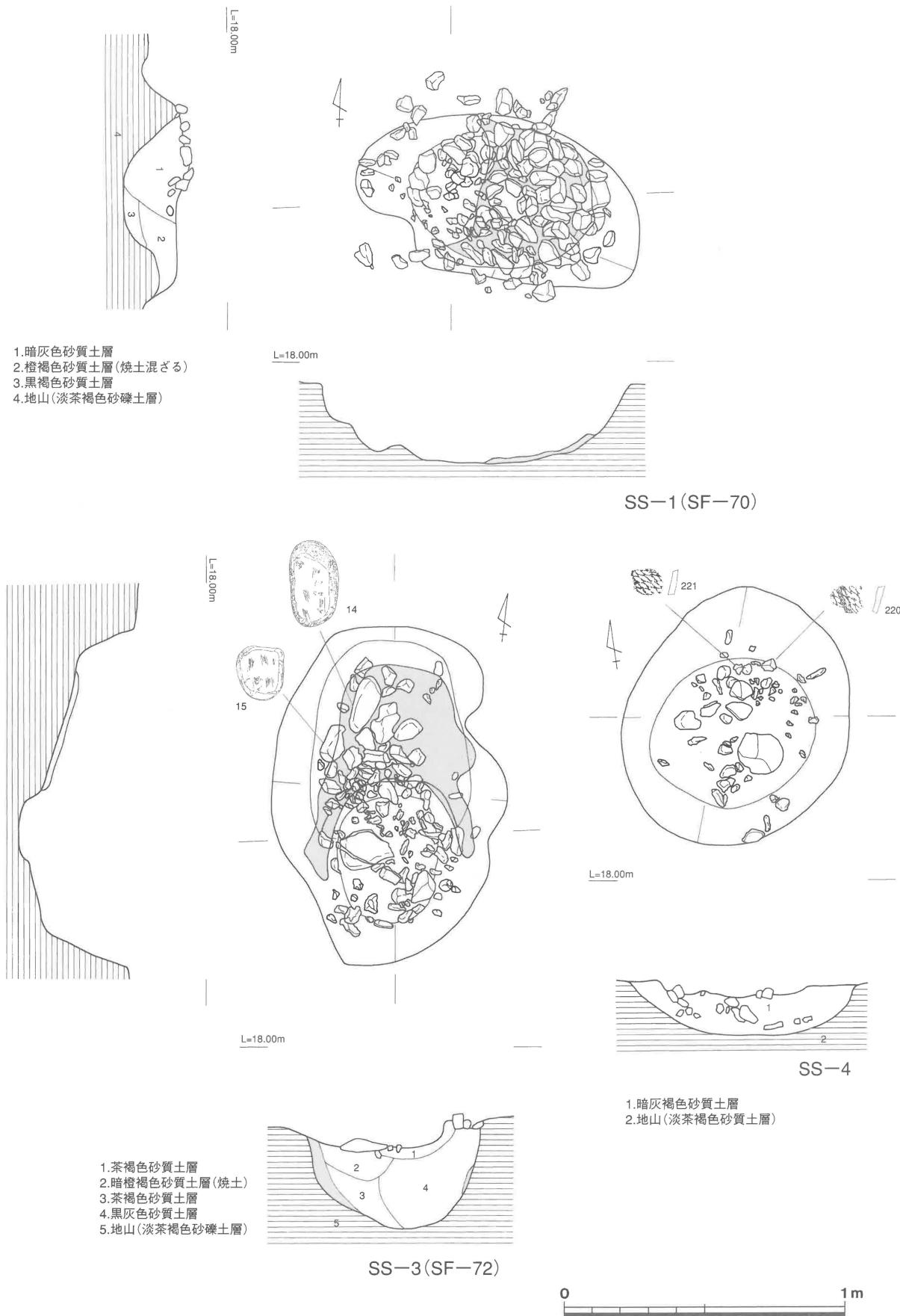
第23図 炉穴実測図-13 (1/20)



第24図 炉穴実測図-14 (1/20)



第25図 炉穴実測図-15 (1/20)



第26図 集石炉実測図一 1 (1/20)



第27図 集石炉実測図一 2 (1/20)

## SK-34 (第10図)

A地区Q-13区で検出された土壙である。平面形は円形で、規模は径12cm、深さは10cmである。埋土は暗灰色砂質土である。出土遺物には押型文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。

## SK-35 (第10図)

B地区O-8区で検出された土壙である。平面形は不整形で、規模は長径82cm、短径48cm、深さは4cmである。埋土は茶褐色砂質土である。出土遺物には撫糸文土器があり、時期は早期前葉大川式萩平型の頃と思われる。



第28図 集石炉実測図一3 (1/20)

## 4. 遺物（第29～35図、第1・2表）

今回の調査で出土した遺物のうち、縄文時代の遺物はコンテナ箱（34×54×20cm）に6箱程出土している。その内訳は大半が縄文土器であり、他に土製品や石器もみられる。以下では、縄文土器、土製品、石器に分けて説明する。

### A. 縄文土器（第29～32図・第1表）

ここでは縄文土器について、遺構ごとに説明する。なお、縄文土器についての細かな調整・法量等は第1表の観察表に記している。

#### S B - 1（第29図1・2）

1は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。2は体部の細片であり、外面には押型文（格子文）が施されているようである。

#### S F - 2（第29図3・4）

3は口縁部破片であり、口縁部は外傾して端部は面をなしている。外面には口縁端部まで押型文（格子文）が施されている。4は口縁部破片であり、口縁部は外傾して端部は面をなしている。外面には端部から若干離れた位置から押型文（格子文）が施されている。

#### S F - 4（第29図5～7）

5は口縁部付近の破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。6・7は体部の細片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

#### S F - 5（第29図8）

8は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

#### S F - 6（第29図9・10）

9・10は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

#### S F - 7（第29図11～13）

11は外傾する口縁部破片であり、端部は面をなして斜位の刻目が入れられている。外面には口縁端部まで押型文（格子文）が施されている。12・13は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F - 9** (第29図14~21)

14は外反する口縁部破片である。口縁端部は外方にナデ丸められ、斜位の連続刻目が入れられている。外面はナデで、指頭圧痕が認められる。15は口縁部付近の破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。16~21は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F - 10** (第29図22~38)

22は外反する口縁部破片である。口縁端部は面をなし、斜位の連続刻目が入れられている。外面には押型文（格子文）が施されている。格子文は幅3.5cmほど原体を斜位に転がして付けられており、格子文の両端は無文となっている。内面は板ナデである。23・24は口縁部破片であり、口縁部は外傾して端部は面をなし、斜位の連続刻目が入れられている。外面には端部から若干離れた位置より押型文（格子文）が施されている。25は口縁部破片であり、口縁部は外傾して端部は面をなし、斜位の連続刻目が入れられている。外面はナデである。26~38は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F - 12** (第29図39~58)

39は外反する口縁部破片で、端部はやや丸い。外面は端部付近が撫でられており、その下から押型文（格子文）が施されている。内面は板ナデである。補修孔が2箇所で認められる。40・41は外反する口縁部破片で、端部はやや面をなす。外面は端部付近は撫でられており、その下から押型文（格子文）が施されている。42は口縁部破片であり、口縁部は外傾して端部は僅かに面をなしている。外面には端部から押型文（格子文）が施されている。43・44は口縁部破片であり、口縁部は外反して端部は面をなしている。外面には端部から若干離れた位置より押型文（格子文）が施されている。45~56は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。57は体部破片であり、外面は無文（ナデ）である。58は体部破片であり、外面には撫糸文（L）が施されている。

**S F - 15** (第29図59~61)

59~61は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F - 16** (第30図62~69)

62は外反する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は端部付近が撫でられており、その下から押型文（格子文）が施されている。63は外反する口縁部破片で、端部はやや丸い。外面は押型文（格子文）が施されている。64~68は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。69は体部破片であり、外面には撫糸文が施されている。

**S F - 17** (第30図70~75)

70は外傾する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。71は外反する口縁部破片で、端部はやや面をなす。外面は端部付近が撫でられてお

り、その下から押型文（格子文）が施されている。72～75は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-18** (第30図76・77)

76・77は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-19** (第30図78～86)

78は口縁端部及び底部を欠損している。口縁部は外反するようで、体部はやや膨れている。外面は押型文（格子文）が施され、内面は板ナデである。79～81は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。82は底部付近の破片で、窄まっている。外面には押型文（格子文）が施されている。83～86は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。86は刺突文の可能性もある。

**S F-22** (第30図87・88)

87は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。88は体部破片であり、外面には縄文（LR）が施されている。

**S F-23** (第30図89～91)

89～91は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-25** (第30図92)

92は体部破片であり、外面には押型文（格子文）？が施されている。

**S F-26** (第30図93・94)

93・94は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-28** (第30図95～102)

95は外傾する口縁部破片で、端部は面をなしている。外面は押型文（格子文）が施されている。96は外反する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は端部付近が撫でられており、その下から押型文（格子文）が施されている。97～100は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。101・102は体部破片であり、外面には燃糸文（R）が施されている。

**S F-31** (第30図103～112)

103はやや外反する口縁部破片で、端部は面をなしている。外面は押型文（格子文）が施されている。104～106は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。107～112は体部破片であり、外面には押型文（山形文）が施されている。

**S F-32** (第30図113~115)

113~115は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-33** (第30図116~124)

116はやや外反する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。117~123は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。124は体部破片であり、外面には撫糸文（L）が施されている。

**S F-34** (第30図125)

125はやや外傾する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。

**S F-35** (第30図126~128)

126は外傾する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。127・128は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-36** (第31図129~134)

129~134は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-37** (第31図135~145)

135は外傾する口縁部破片で、端部は面をなす。外面は押型文（格子文）が施されている。136~143は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。144は口縁部～体部の破片であり、口縁部は端部付近で外傾し、端部は尖る。外面には撫糸文（L）が縦位に、内面の口縁部には撫糸文が横位に施されている。145は体部破片であり、外面には撫糸文（L）が施されている。

**S F-38** (第31図146・147)

146は外反する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は端部付近が撫でられており、その下から押型文（格子文）が施されている。147は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F-39** (第31図148~164)

148は外反する口縁部破片で、端部はやや丸くて連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。149は外反する口縁部破片で、端部はやや面をなす。外面は押型文（格子文）？が施されている。150~157は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。158~160は体部破片であり、外面には押型文（山形文）が施されている。161は口縁部破片であり、口縁部は真っ直ぐのびて端部は丸い。端部には刻目？が入れられている。外面には撫糸文（R）が縦位に施さ

れている。162は口縁部破片であり、口縁部は真っ直ぐのびて端部は丸い。外面には撲糸文（L）が縦位に施されている。163は体部破片であり、外面には撲糸文（L）が施されている。164は体部破片であり、外面には縄文？が施されている。

**S F -41** （第31図165・166）

165・166は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。165は内面にも押型文（格子文）が施されている。

**S F -43** （第31図167～182）

167は外傾する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。168は外傾する口縁部破片で、端部はやや面をなす。外面は端部からやや離れた位置から押型文（格子文）が施されている。169～180は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。181は口縁部破片であり、口縁部はやや外反して端部は丸い。外面には撲糸文（R）が縦位に施されている。182は体部破片であり、外面には撲糸文（R）が施されている。

**S F -44** （第31図183）

183は体部破片であり、外面には撲糸文？が施されている。

**S F -47** （第31図184）

184は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S F -49** （第31図185・186）

185は体部破片であり、外面には撲糸文？が施されている。186は体部破片であり、外面には縄文？が施されている。

**S F -50** （第31図187～189）

187は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。188は体部破片であり、摩滅が著しいが外面には押型文（格子文）？が施されているようである。189は体部破片であり、外面には撲糸文（L）が施されている。

**S F -51** （第31図190）

190は体部破片であり、外面は一部剥離しているが押型文（格子文）が施されている。

**S F -52** （第31図191）

191は体部破片であり、外面は一部剥離しているが押型文（格子文）が施されている。

**S F-54** (第31図192)

192は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S F-55** (第31図193～197)

193～195は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。196は口縁部破片であり、口縁部はやや外反して端部は丸い。外面には縄文？が施されているようである。197は口縁部破片であり、口縁部はやや外反して端部は面をなす。外面には縄文（RL）が施されている。

**S F-56** (第31図198)

198は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S F-63** (第31図199～206)

199はやや外反する口縁部破片で、端部はやや面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。200～204は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。205は体部破片であり、外面にはポジティブの楕円文が施されている。206は体部破片であり、摩滅してわかりにくいが、外面には撚糸文？が施されているようである。

**S F-64** (第31図207～209)

207～209は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S F-67** (第31図210～216)

210はやや外反する口縁部破片で、端部は丸い。外面には押型文（格子文）？が施されているようである。211～216は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。このうち211～214は摩滅が著しいが、胎土に纖維を含んでいる可能性がある。

**S F-68** (第32図217)

217は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S F-69** (第32図218・219)

218・219は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S S-4** (第32図220・221)

220・221は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S S-5** (第32図222)

222は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S S - 7** (第32図223)

223は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 6** (第32図224)

224は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 7** (第32図225)

225は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 8** (第32図226)

226は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 9** (第32図227)

227は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 10** (第32図228)

228は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 11** (第32図229)

229は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 12** (第32図230・231)

230は外傾する口縁部破片であり、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。231は底部破片であり、底部は乳頭状に尖る。外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 13** (第32図232・233)

232・233は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 14** (第32図234)

234は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K - 15** (第32図235)

235は体部破片であり、摩滅してわかりにくいため、外面は撲糸文が施されているようである。

**S K-16** (第32図236)

236は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-17** (第32図237～239)

237はやや外傾する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。238・239は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。

**S K-19** (第32図240)

240は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-20** (第32図241)

241は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-21** (第32図242・243)

242・243は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-22** (第32図244・245)

244は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。245は体部破片で、外面に撫糸文（R）が施されている。

**S K-23** (第32図246・247)

246は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。247は体部破片で、摩滅しているが外面に撫糸文が施されているようである。胎土中に纖維を含んでいる可能性がある。

**S K-24** (第32図248～256)

248～254は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。255・256は体部破片で、外面に繩文（LR）が施されている。

**S K-25** (第32図257～259)

257～259は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-26** (第32図260)

260は口縁部破片であり、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面はナデである。

**S K-27** (第32図261～266)

261～266は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-28** (第32図267~269)

267は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。268は体部破片であり、摩滅しているが外面には擦痕？があるようである。269は底部付近の破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-29** (第32図270~272)

270・271は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。272は体部破片で、外面に縄文（LR）が施されている。

**S K-31** (第32図273)

273は体部破片であり、外面は撫糸文（L）が施されている。

**S K-32** (第32図274)

274は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-34** (第32図275・276)

275・276は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。

**S K-35** (第32図277)

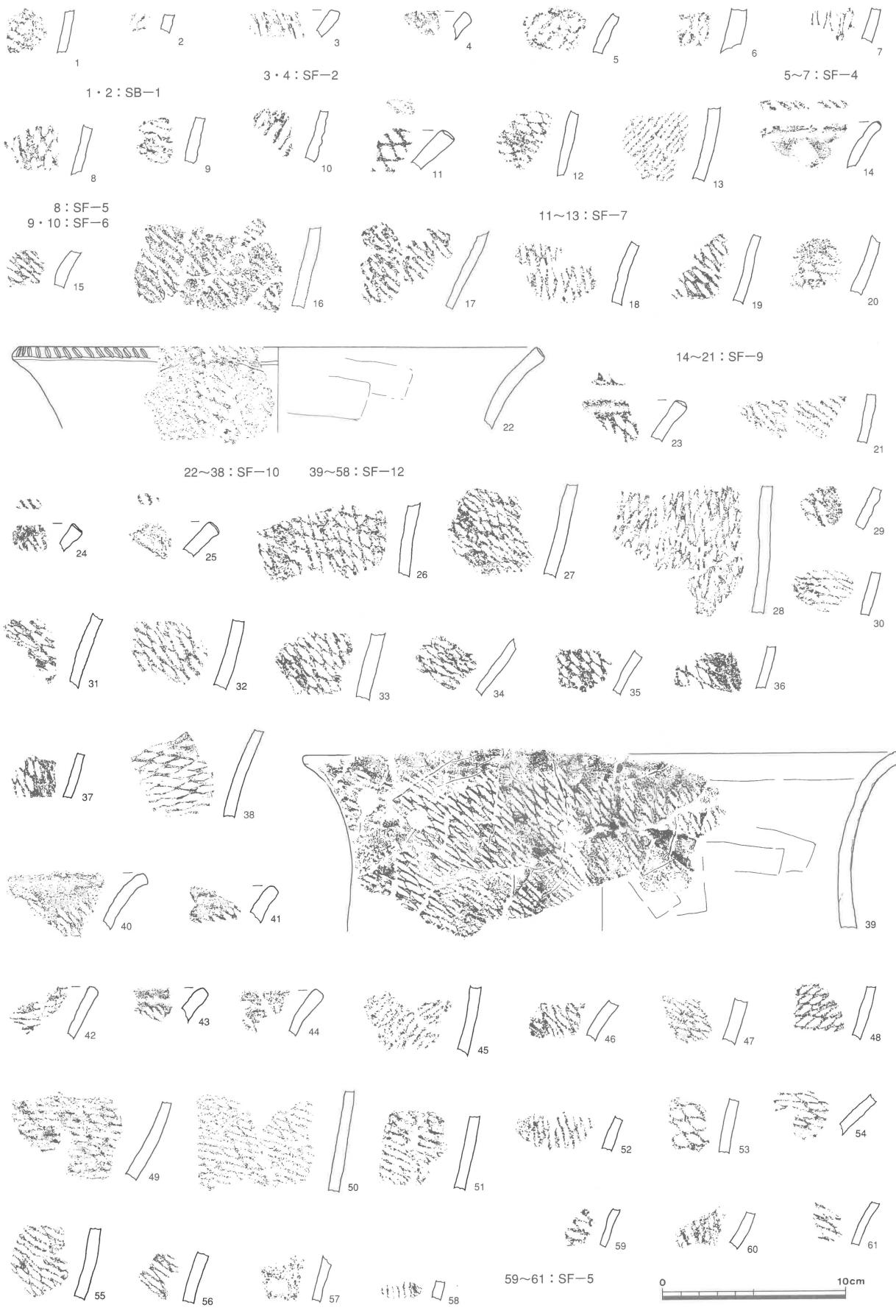
277は体部破片であり、外面は撫糸文（R）が施されている。

**縄文時代以外遺構** (第32図278~298)

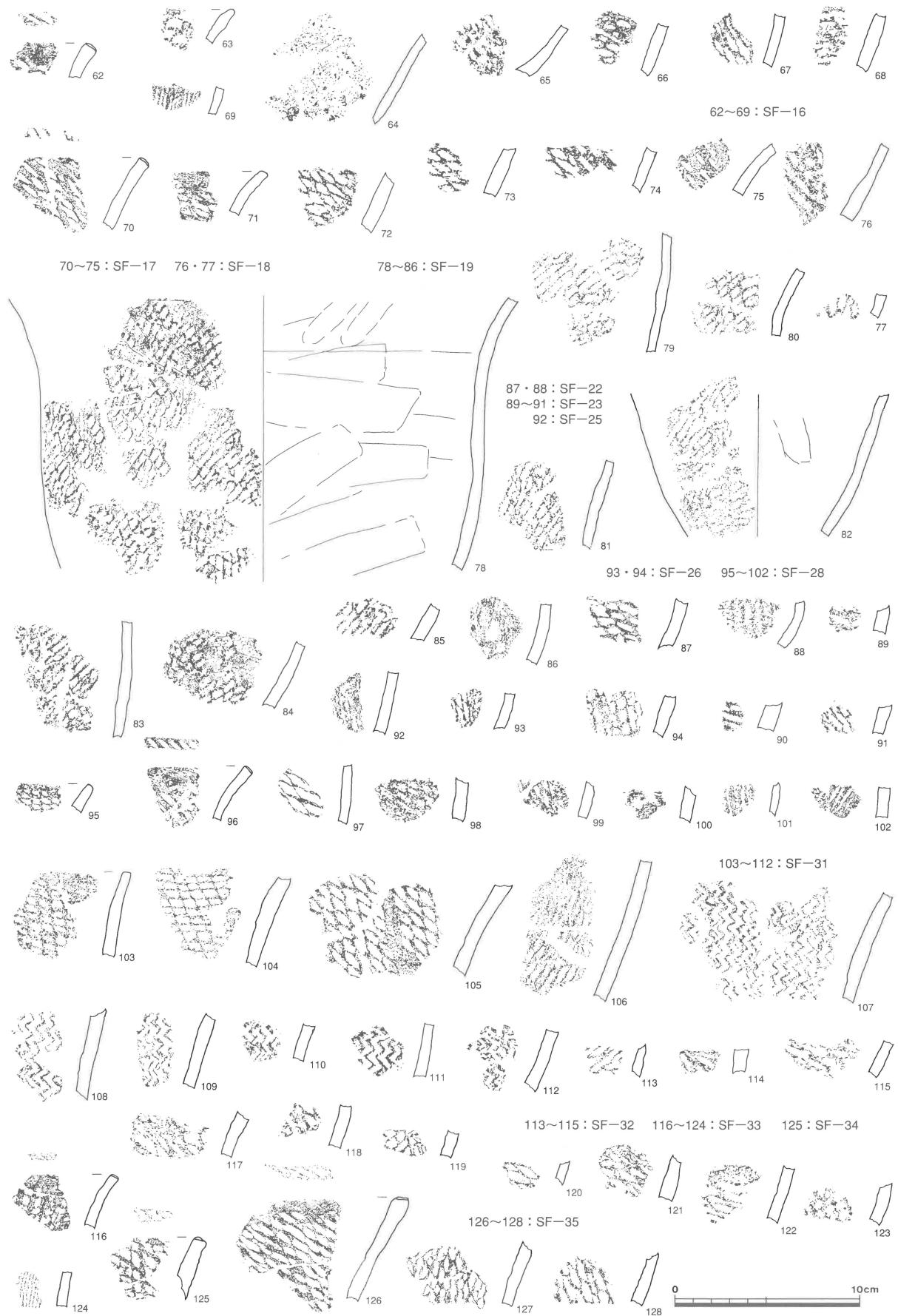
278~298は縄文時代以外の遺構から出土した縄文土器である。278~284は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。289はやや内湾する口縁部破片で、端部は丸く連続刻目が施されている。外面には押型文（格子文）が施されている。285~288・290~294・296~298は体部破片であり、外面は押型文（格子文）が施されている。290にはナデ窪みが認められる。295は内湾する口縁部破片で、端部は面をなす。内面は肥厚されている。外面には連続刻目の入れられた隆帯が先端から左右に分かれて広がっている。縄文が施されていたようであるが、摩滅のためよくわからない。

**表土** (第32図299~316)

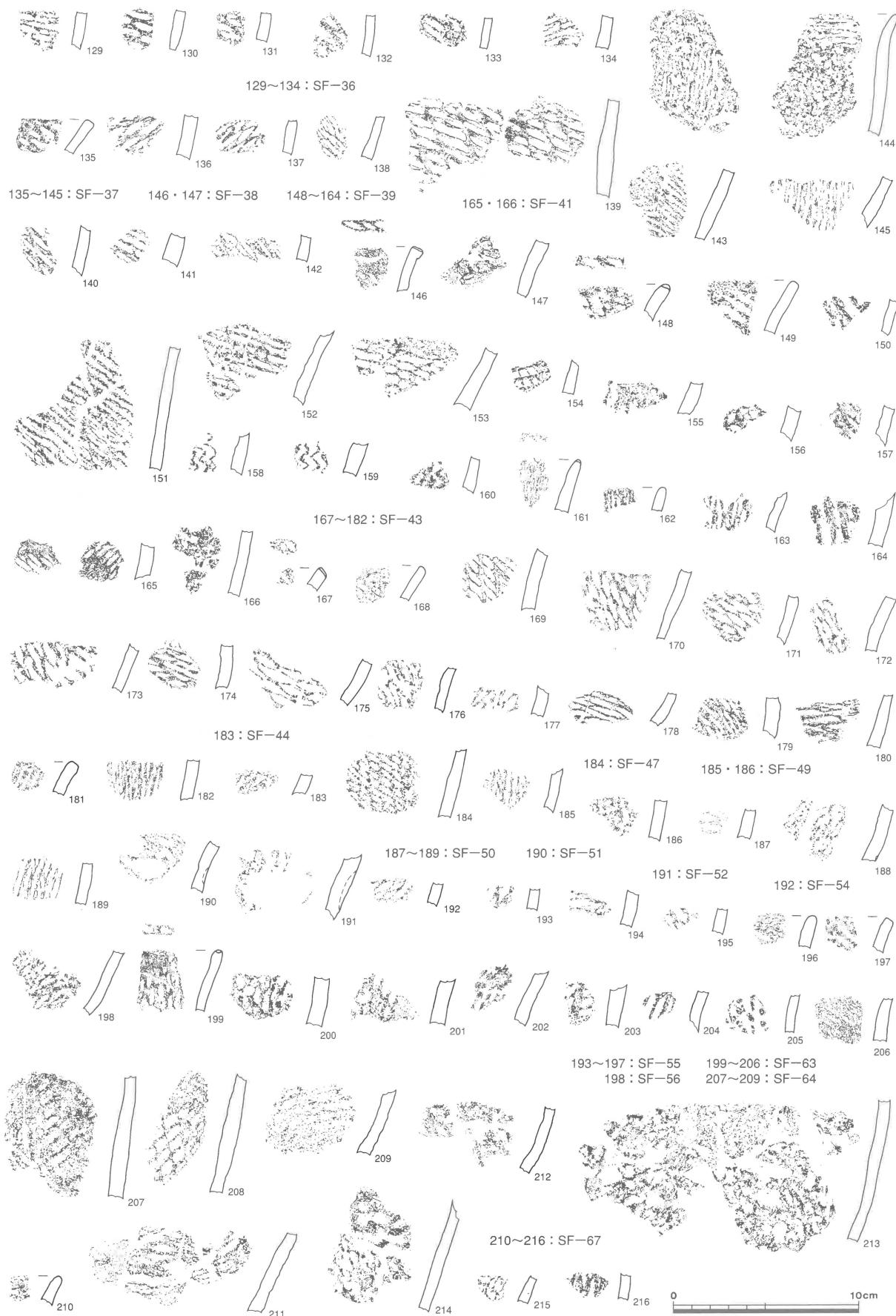
299は外傾する口縁部破片で、端部は面をなして連続刻目が入れられている。外面は押型文（格子文）が施されている。300は外反する口縁部破片で、端部は面をなしている。外面は押型文（格子文）が施されている。301~313は体部破片であり、外面には押型文（格子文）が施されている。314は体部破片であり、外面には撫糸文が施されているようである。315は体部破片であり、外面は無文（ナデ）である。316はやや内湾する体部破片である。外面には2本の隆帯が間隔をあけて貼り付けられ、半截竹管文が施されているようである。隆帯間はナデである。



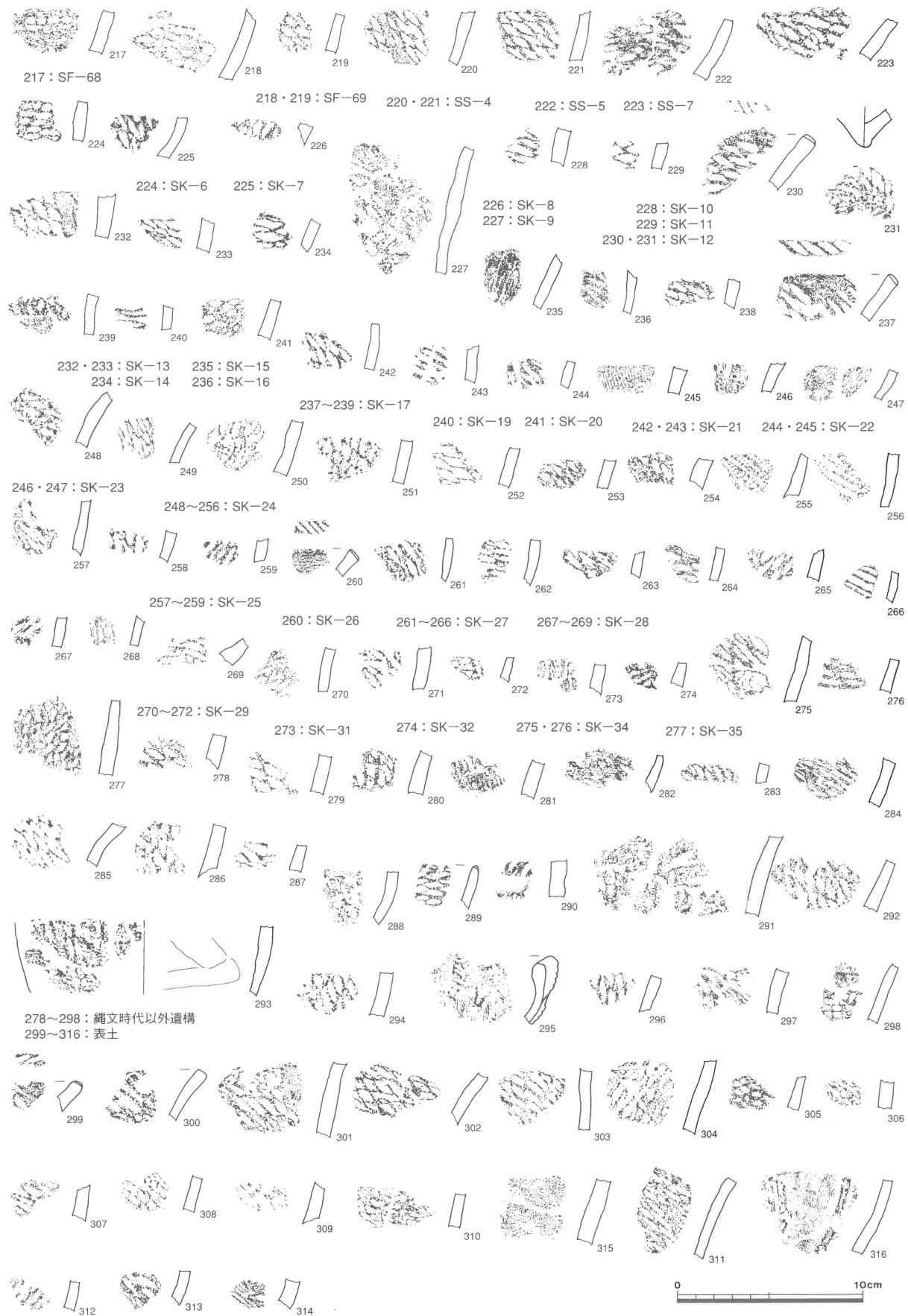
第29図 繩文土器実測図一 1 (1/3)



第30図 縄文土器実測図一 2 (1/3)



第31図 繩文土器実測図一 3 (1/3)



第32図 縄文土器実測図一 4 (1/3)

第1表 縄文土器観察表

図版-遺物No.	遺構	分類	器種	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	時期
29 1	SB-1	J	深鉢					密	良好	淡灰褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
2	SB-1	J	深鉢					密	良好	淡灰褐色	内面ナメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
3	SF-2	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内外面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
4	SF-2	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内外面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
5	SF-4	J	深鉢				やや粗	良好	淡橙褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
6	SF-4	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
7	SF-4	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
8	SF-5	J	深鉢				密	良好	橙褐色	内外面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
9	SF-6	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
10	SF-6	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
11	SF-7	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面ナメツ、外面格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
12	SF-7	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内外面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
13	SF-7	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面ナメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
14	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面ナデ・指頭圧痕、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
15	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
16	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
17	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面板ナデ痕・マメツ、外面格子文・ナデ	早期前葉大川式萩平型	
18	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ・マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
19	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
20	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ・板ナデ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
21	SF-9	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
22	SF-10	J	深鉢	28.4	(4.6)		やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ・板ナデ痕、外面格子文・無文帶、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
23	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ・マメツ、外面ナデ・格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
24	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
25	SF-10	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内外面ナデ、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
26	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
27	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
28	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ?、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
29	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
30	SF-10	J	深鉢				密	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
31	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
32	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
33	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
34	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
35	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
36	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
37	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
38	SF-10	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面ナデ?、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
39	SF-12	J	深鉢	32.6	(9.8)		やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ・板ナデ、外面格子文・補修孔2ヶ所	早期前葉大川式萩平型	
40	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	明橙褐色	内面ナデ・マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
41	SF-12	J	深鉢				密	良好	橙褐色	内面ナデ・マメツ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
42	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
43	SF-12	J	深鉢				密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
44	SF-12	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
45	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
46	SF-12	J	深鉢				密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
47	SF-12	J	深鉢				密	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
48	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
49	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
50	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
51	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ?、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
52	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
53	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
54	SF-12	J	深鉢				密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
55	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
56	SF-12	J	深鉢				密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
57	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内外面ナデ	早期前葉大川式萩平型	
58	SF-12	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面撲糸文(L)	早期前葉大川式萩平型	
59	SF-15	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
60	SF-15	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
61	SF-15	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文	早期前葉大川式萩平型	
30	62	SF-16	J	深鉢			やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ナデ・格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
63	SF-16	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	
64	SF-16	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面マメツ、外面格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型	
65	SF-16	J	深鉢				やや粗	良好	黄褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型	

図版-遺物No.	遺構	分類	器種	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	時期
66	SF-16	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面マツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
67	SF-16	J	深鉢				やや粗	良好	明褐色	内面マツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
68	SF-16	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文・ナデ		早期前葉大川式萩平型
69	SF-16	J	深鉢				密	良好	明褐色	内面ナデ、外面燃糸文		早期前葉大川式萩平型
70	SF-17	J	深鉢				密	良好	橙褐色	内面板ナデ、外面格子文・口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
71	SF-17	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内外面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
72	SF-17	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
73	SF-17	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
74	SF-17	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面マツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
75	SF-17	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ?、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
76	SF-18	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
77	SF-18	J	深鉢				密	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
78	SF-19	J	深鉢	(15.8)			やや粗	良好	橙褐色	内面板ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
79	SF-19	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
80	SF-19	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
81	SF-19	J	深鉢				密	良好	茶色	内面指押さえ・ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
82	SF-19	J	深鉢	(8.1)			密	良好	茶色	内面板マツ、外面押型文		早期前葉大川式萩平型
83	SF-19	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
84	SF-19	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ?、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
85	SF-19	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
86	SF-19	J	深鉢				密	良好	暗茶褐色	内面マツ、外面格子文(刺突?)		早期前葉大川式萩平型
87	SF-22	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
88	SF-22	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面繩文(L R)		早期前葉大川式萩平型
89	SF-23	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
90	SF-23	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
91	SF-23	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
92	SF-25	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文?		早期前葉大川式萩平型
93	SF-26	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面押型文、口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
94	SF-26	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
95	SF-28	J	深鉢				密	良好	淡茶褐色	内面板ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
96	SF-28	J	深鉢				密	良好	淡茶灰色	内面ナデ、外面格子文・口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
97	SF-28	J	深鉢				密	良好	淡灰紫色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
98	SF-28	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶灰色	内面ナデ?、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
99	SF-28	J	深鉢				密	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
100	SF-28	J	深鉢				密	良好	淡茶灰色	内面ナデ、外面押型文?		早期前葉大川式萩平型
101	SF-28	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面マツ、外面燃糸文(R)		早期前葉大川式萩平型
102	SF-28	J	深鉢				密	良好	淡茶灰色	内面ナデ、外面燃糸文(R)		早期前葉大川式萩平型
103	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面押型文		早期前葉大川式萩平型
104	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
105	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面板ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
106	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
107	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
108	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
109	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
110	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
111	SF-31	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面マツ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
112	SF-31	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面マツ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
113	SF-32	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
114	SF-32	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
115	SF-32	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面板ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
116	SF-33	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文・口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
117	SF-33	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
118	SF-33	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
119	SF-33	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
120	SF-33	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
121	SF-33	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
122	SF-33	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
123	SF-33	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
124	SF-33	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面燃糸文(L)		早期前葉大川式萩平型
125	SF-34	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文・口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
126	SF-35	J	深鉢				密	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面押型文、口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
127	SF-35	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
128	SF-35	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面マツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
31	129	SF-36	J	深鉢			密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
130	SF-36	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型

図版-遺物No.	遺構	分類	器種	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調 整 等	時 期
131	SF-36	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
132	SF-36	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
133	SF-36	J	深鉢				密	良好	淡灰紫色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
134	SF-36	J	深鉢				密	良好	淡灰紫色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
135	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
136	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
137	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面押型文		早期前葉大川式萩平型
138	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
139	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ?、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
140	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
141	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
142	SF-37	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
143	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
144	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	橙褐色	内面撲糸文・板ナデ、外面撲糸文(L)		早期前葉大川式萩平型
145	SF-37	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面撲糸文(L)		早期前葉大川式萩平型
146	SF-38	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文、口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
147	SF-38	J	深鉢				密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
148	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文、口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
149	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面マメツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
150	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶色	内面ナデ、外面格子文?		早期前葉大川式萩平型
151	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面マメツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
152	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面マメツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
153	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
154	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
155	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文?		早期前葉大川式萩平型
156	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
157	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面マメツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
158	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
159	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
160	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面マメツ、外面山形文		早期前葉大川式萩平型
161	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	淡褐色	内面ナデ、外面撲糸文(R)、口唇刻目?		早期前葉大川式萩平型
162	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面撲糸文(L)		早期前葉大川式萩平型
163	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面撲糸文(L)		早期前葉大川式萩平型
164	SF-39	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面マメツ、外面繩文?		早期前葉大川式萩平型
165	SF-41	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内外面格子文		早期前葉大川式萩平型
166	SF-41	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面マメツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
167	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ?、外面格子文、口唇刻目		早期前葉大川式萩平型
168	SF-43	J	深鉢				密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
169	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
170	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
171	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
172	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
173	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ?、煤付着、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
174	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
175	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
176	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
177	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
178	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
179	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
180	SF-43	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
181	SF-43	J	深鉢				密	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面撲糸文(R)		早期前葉大川式萩平型
182	SF-43	J	深鉢				密	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面撲糸文(R)		早期前葉大川式萩平型
183	SF-44	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面撲糸文?		早期前葉大川式萩平型
184	SF-47	J	深鉢				やや粗	良好	灰褐色	内面板ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
185	SF-49	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面撲糸文?		早期前葉大川式萩平型
186	SF-49	J	深鉢				やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面繩文?		早期前葉大川式萩平型
187	SF-50	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
188	SF-50	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面マメツ、外面格子文?		早期前葉大川式萩平型
189	SF-50	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面撲糸文(L)		早期前葉大川式萩平型
190	SF-51	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
191	SF-52	J	深鉢				やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面押型文		早期前葉大川式萩平型
192	SF-54	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
193	SF-55	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面マメツ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
194	SF-55	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型
195	SF-55	J	深鉢				やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文		早期前葉大川式萩平型

図版－ 遺物No.	遺構	分類	器種	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	時期
196	SF-55	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面繩文？	早期前葉大川式萩平型
197	SF-55	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面板ナデ、外面繩文(R L)	早期前葉大川式萩平型
198	SF-56	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
199	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	暗褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
200	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
201	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
202	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
203	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
204	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	暗茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
205	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面ポジティブ捺印文	早期前葉大川式萩平型
206	SF-63	J	深鉢					やや粗	良好	暗褐色	内面マメツ、外面捺糸文？	早期前葉大川式萩平型
207	SF-64	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
208	SF-64	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
209	SF-64	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
210	SF-67	J	深鉢					やや粗	良好	明茶色	内面ナデ、外面押型文	早期前葉大川式萩平型
211	SF-67	J	深鉢					やや粗	良好	暗茶褐色	内面ナデ、外面押型文	早期前葉大川式萩平型
212	SF-67	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文、纖維含む？	早期前葉大川式萩平型
213	SF-67	J	深鉢					やや粗	良好	淡褐色	内面マメツ、外面格子文？、纖維含む？	早期前葉大川式萩平型
214	SF-67	J	深鉢					やや粗	良好	淡茶褐色	内面マメツ、外面格子文、纖維含む？	早期前葉大川式萩平型
215	SF-67	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
216	SF-67	J	深鉢					やや粗	良好	明茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
32	217	SF-68	J	深鉢				やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
218	SF-69	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
219	SF-69	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
220	SS-4	J	深鉢					やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
221	SS-4	J	深鉢					やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
222	SS-5	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
223	SS-7	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
224	SK-6	J	深鉢				(2.2)	密	良好	橙褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
225	SK-7	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
226	SK-8	J	深鉢					密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
227	SK-9	J	深鉢					やや粗	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
228	SK-10	J	深鉢					やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
229	SK-11	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
230	SK-12	J	深鉢					密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型
231	SK-12	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
232	SK-13	J	深鉢					密	良好	淡茶灰色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
233	SK-13	J	深鉢					密	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
234	SK-14	J	深鉢					密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
235	SK-15	J	深鉢					密	良好	暗褐色	内面ナデ、外面捺糸文？	早期前葉大川式萩平型
236	SK-16	J	深鉢					密	良好	暗茶褐色	内面ナデ、外面押型文	早期前葉大川式萩平型
237	SK-17	J	深鉢					密	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型
238	SK-17	J	深鉢					密	良好	淡茶灰色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
239	SK-17	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
240	SK-19	J	深鉢					密	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
241	SK-20	J	深鉢					やや粗	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
242	SK-21	J	深鉢					密	良好	淡茶灰色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
243	SK-21	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
244	SK-22	J	深鉢					密	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
245	SK-22	J	深鉢					やや粗	良好	淡褐色	内面ナデ、外面捺糸文(R)	早期前葉大川式萩平型
246	SK-23	J	深鉢					やや粗	良好	淡褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
247	SK-23	J	深鉢					密	良好	暗褐色	内面ナデ、外面マメツ、纖維含む？	早期前葉大川式萩平型
248	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
249	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
250	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
251	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	明褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
252	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
253	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
254	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
255	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面繩文(L R)	早期前葉大川式萩平型
256	SK-24	J	深鉢					やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面繩文(L R)	早期前葉大川式萩平型
257	SK-25	J	深鉢					やや粗	良好	明茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
258	SK-25	J	深鉢					やや粗	良好	暗茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
259	SK-25	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面捺糸文(R)	早期前葉大川式萩平型
260	SK-26	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内外面ナデ、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型

図版-遺物No.	遺構	分類	器種	口径	器高	底径	その他	胎土	焼成	色調	調整等	時期
261	SK-27	J	深鉢					密	良好	淡灰褐色	内面ナデ、外面格子文？	早期前葉大川式萩平型
262	SK-27	J	深鉢					密	良好	淡灰褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
263	SK-27	J	深鉢					密	良好	淡灰褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
264	SK-27	J	深鉢					密	良好	淡灰褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
265	SK-27	J	深鉢					密	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
266	SK-27	J	深鉢					密	良好	淡灰褐色	内面ナデ、外面押型文？	早期前葉大川式萩平型
267	SK-28	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
268	SK-28	J	深鉢					やや粗	良好	明茶色	内面板ナデ、外面擦痕？	早期前葉大川式萩平型
269	SK-28	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
270	SK-29	J	深鉢					やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
271	SK-29	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
272	SK-29	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面繩文(L R)	早期前葉大川式萩平型
273	SK-31	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面撫糸文(L)	早期前葉大川式萩平型
274	SK-32	J	深鉢					密	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
275	SK-34	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
276	SK-34	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
277	SK-35	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面撫糸文(R)	早期前葉大川式萩平型
278	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
279	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
280	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
281	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
282	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
283	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	淡紫灰色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
284	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
285	縄文時代以外遺構	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
286	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
287	縄文時代以外遺構	J	深鉢					やや粗	良好	橙褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
288	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
289	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型
290	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文・ナデ凹み	早期前葉大川式萩平型
291	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文？	早期前葉大川式萩平型
292	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
293	縄文時代以外遺構	J	深鉢	(4.0)				やや粗	良好	橙褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
294	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
295	縄文時代以外遺構	J	深鉢					やや粗	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面隆帶(刻目)・繩文？	中期前葉船元Ⅲ式？
296	縄文時代以外遺構	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面ナデ・繩文(L R)？	早期前葉大川式萩平型
297	縄文時代以外遺構	J	深鉢					密	良好	明茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
298	縄文時代以外遺構	J	深鉢					やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
299	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文、口唇刻目	早期前葉大川式萩平型
300	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
301	表土	J	深鉢					密	良好	明褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
302	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
303	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
304	表土	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
305	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
306	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
307	表土	J	深鉢					やや粗	良好	明褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
308	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
309	表土	J	深鉢					やや粗	良好	茶色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
310	表土	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
311	表土	J	深鉢					やや粗	良好	橙褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
312	表土	J	深鉢					やや粗	良好	明茶色	内面マメツ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
313	表土	J	深鉢					やや粗	良好	淡茶褐色	内面ナデ、外面格子文	早期前葉大川式萩平型
314	表土	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面ナデ、外面撫糸文	早期前葉大川式萩平型
315	表土	J	深鉢					密	良好	茶褐色	内面板ナデ、外面ナデ	早期前葉大川式萩平型
316	表土	J	深鉢					密	良好	橙褐色	内面板ナデ、外面隆帶・竹管文？	中期前葉

※法量の数値はcm、( )は残存数値。

J-縄文土器

### B. 石器（第33～35図・第2表）

石器では磨石2点、凹石1点、台石12点が出土している。ここでは石器を種類ごとに述べる。法量等は第2表参照。

#### 磨石（第33図1・2）

1は長さ9cmほどの楕円形をなす扁平な自然礫を利用しておらず、側面の1箇所に研磨痕が認められている。側面は研磨のため平らになっており、各面との境に稜がみられる。礫の先端には敲打痕認められる。その形態からスタンプ形石器とも扱える。SS-3から出土している。2は大半が欠損されているが、楕円形の扁平礫を利用したものと考えられるものである。扁平な面で磨っているため、研磨痕が認められる。SS-6から出土している。

#### 凹石（第33図3）

3は比較的小型で扁平な礫で、敲打によってついた円形の凹みが礫の平坦面に1箇所確認できたことから凹石とした。SS-3から出土している。

#### 台石（第33図4～第35図15）

ここで台石と扱ったものは、大型で扁平な自然礫を利用し、研磨のために平坦面が浅く凹んだものである。石皿と同じ意味であるが、ここでは台石の術語を用いる。当遺跡出土の台石は風化が著しいものが多く、認定には困難を要した。4は割れて一部が欠けているが、片側の平坦面が僅かに凹んで研磨痕が認められている。焼けて赤化している。SS-2から出土。5は割れて下半部が欠けているが、楕円形をなしていたものと考えられ、長径方向に研磨痕がみられて凹んでいる。SS-2から出土。6は割れているが、大型で台形の扁平礫である。片側の平坦面には研磨痕がみられ、僅かに凹んでいる。焼けて赤化している。SS-2から出土。7は折れているが、大型で長楕円形の扁平礫を利用している。片側の平坦面には研磨痕がみられ、僅かに凹んでいる。焼けて赤化している。SS-2から出土。8は割れているが、大型で台形近い扁平礫を利用している。片側の平坦面には研磨痕がみられ、僅かに凹んでいる。焼けて赤化している。SF-19から出土。9は割れて大半を欠損しているが、元は長方形をなしていたものと考えられる。長辺方向に研磨痕が認められる。SF-19から出土している。10は大型で台形に近い礫を利用しており、片側の平坦面に研磨による凹みが認められる。SF-28から出土している。11は先端部を欠損しているが、元は長楕円形に近かったものと思われる。長径に対して斜位の方向から研磨がなされていたようである。研磨痕と凹みが認められる。SF-28から出土している。12は割れて一部を欠くが、台形に近い扁平礫を利用している。片側の平坦面に研磨痕がみられて僅かに凹んでいる。SF-28から出土。13は隅丸長方形の礫を利用している。平坦面を長辺方向に研磨している。平坦面は僅かに凹んでいる。SF-38から出土している。14は長楕円形の礫で片面の平坦面を長辺方向に研磨している。平坦面は僅かに凹んでいる。SS-3から出土している。15は隅丸方形の礫である。片側の平坦面を研磨し、平坦面は僅かに凹んでいる。焼けて赤化している。SS-3から出土。

## C. 土製品（第35図・第2表）

土製品には不明土製品1点、粘土塊1点が出土している。法量等は第2表参照。

## 不明土製品（第35図1）

1は楕円形の筒形をなし、中央部が僅かに凹む。両端部は長径1.8cmほどの楕円形をなし、縁部はナデ丸められて面取りがなされている。片側の半分ぐらいは欠けている。手づくね成形されている。耳栓の可能性が高いが、中央付近の括れが弱くて両端が円形ではないため不明土製品として扱う。SF-36から出土している。

## 粘土塊（第35図2）

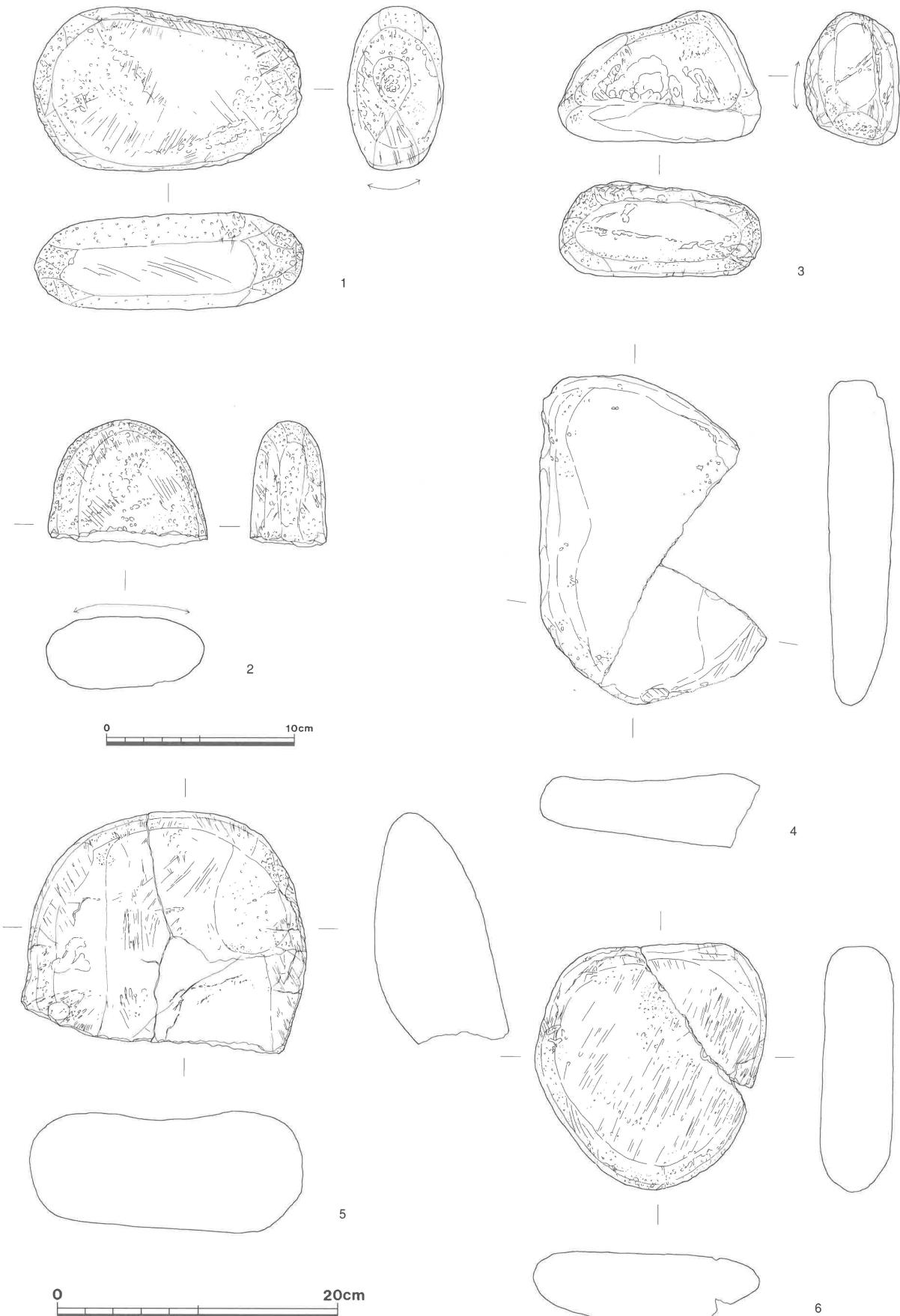
2は粘土が焼かれ、2cmほどの大きさの塊となったものである。粘土塊は厳密にいうと土製品とは扱えないが、粘土を使った焼成物との関連が考えられるためにここに含めて説明する。SK-33から出土している。

第2表 石器・土製品観察表

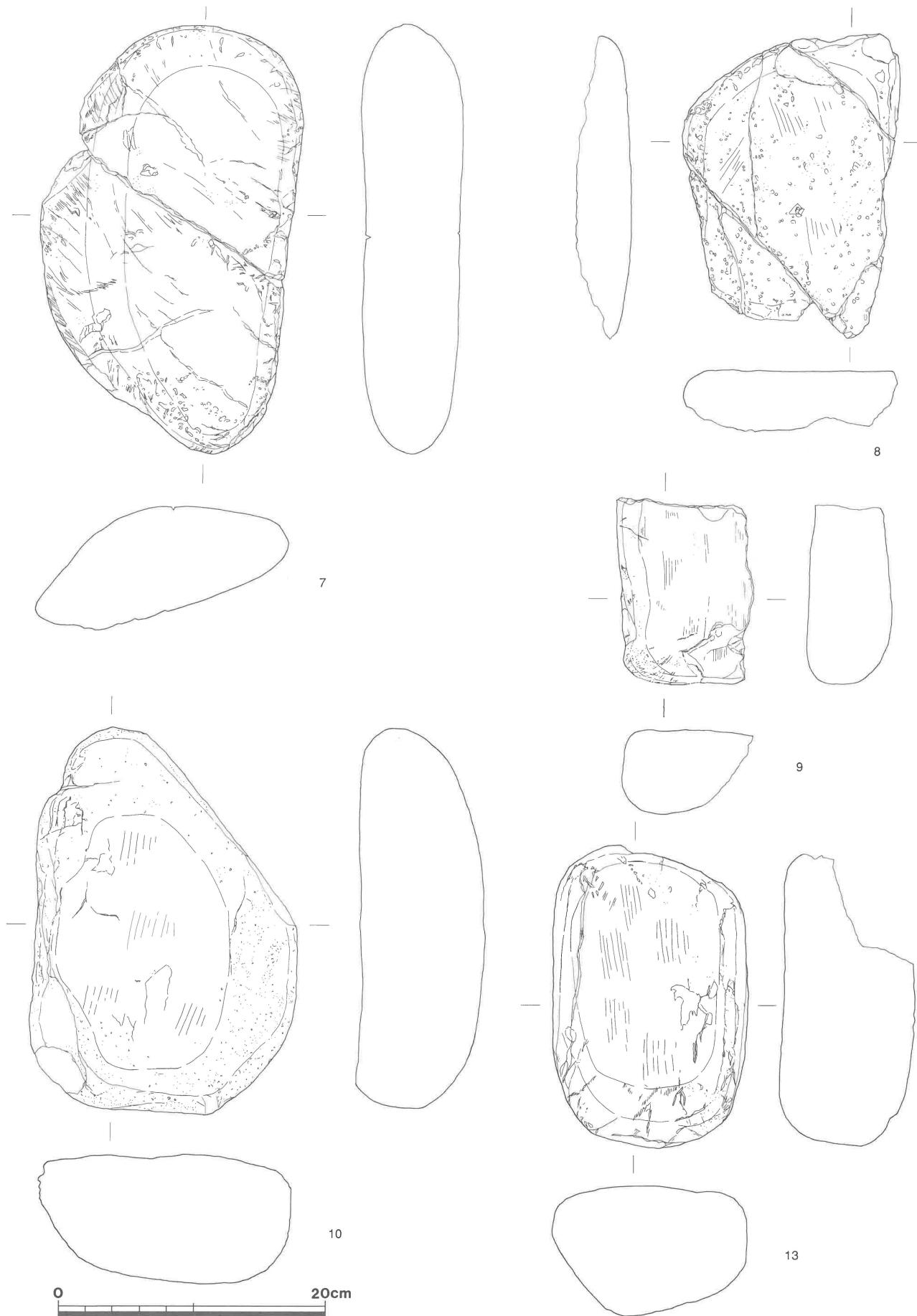
図版-遺物No.	遺構	分類	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	石材	色調	調整等	備考
34 1	SS-3	R	磨石	9.0	14.5	5.2	0.97	花崗岩			
	2	SS-6	R	磨石	(7.0)	8.5	4.0	0.32	花崗岩		
	3	SS-3	R	凹石	(7.3)	11.0	(5.2)	0.53	砂岩		
	4	SS-2	R	台石	24.0	16.1	5.35	2.4	花崗岩?		
	5	SS-2	R	台石	(17.5)	20.3	8.9	4.55	花崗岩?		
	6	SS-2	R	台石	18.1	16.5	5.1	2.3	砂岩		
35 7	SS-2	R	台石	32.7	18.8	8.2	7.04	花崗岩			
	8	SF-19	R	台石	16.2	23.1	4.5	2.12	粘板岩		
	9	SF-19	R	台石	(14.2)	(10.4)	6.5	1.38	砂岩		
	10	SF-28	R	台石	29.0	19.0	9.8	8.54	花崗岩		
36 11	SF-28	R	台石	26.6	17.1	7.5	6.4	砂岩			
	12	SF-28	R	台石	19.2	22.0	7.0	4.15	花崗岩		
35 13	SF-38	R	台石	23.0	14.6	10.0	4.86	砂岩			
36 14	SS-3	R	台石	25.3	13.4	7.8	4.44	花崗岩			
	15	SS-3	R	台石	13.8	15.8	7.6	2.37	砂岩		
	1	SF-36	D	不明土製品	1.7	1.7	1.4	3.8 g		茶褐色	胎土:密、焼成:良好
	2	SK-33	D	粘土塊	2.0	2.0	1.9	8.4 g		茶色	胎土:やや粗雑、焼成:良好

※法量の数値はcm、( )は残存数値。

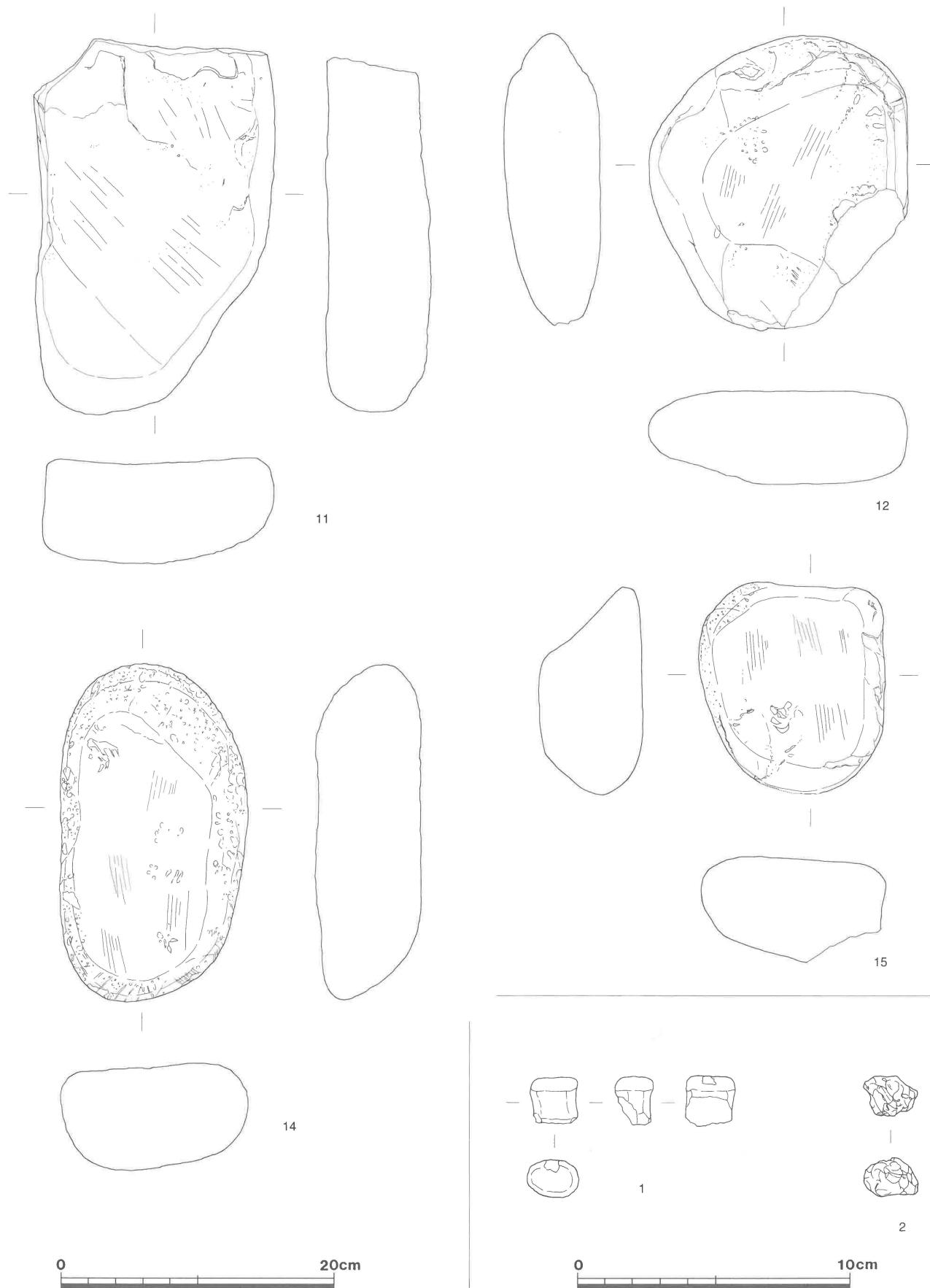
R-石器、D-土製品



第33図 石器実測図－1 (1/3 · 1/4)



第34図 石器実測図一2 (1/4)



第35図 石器実測図-3・土製品実測図(1/2・1/4)